

【表紙】

【提出書類】 有価証券届出書

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成26年11月20日

【発行者名】 ステート・ストリート・グローバル・アドバイザーズ株式会社

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 山本 幸次

【本店の所在の場所】 東京都港区赤坂九丁目7番1号

【事務連絡者氏名】 太田 裕之

【電話番号】 03 - 4530 - 7093

【届出の対象とした募集（売出）内国投資信託受益証券に係るファンドの名称】 ステート・ストリートUSハイ・イールド債券オープン

【届出の対象とした募集（売出）内国投資信託受益証券の金額】 継続募集額 5,000億円を上限とします。

【縦覧に供する場所】 該当事項はありません。

第一部【証券情報】

（１）【ファンドの名称】

ステート・ストリートUSハイ・イールド債券オープン
（以下「当ファンド」または「ファンド」といいます。）

（２）【内国投資信託受益証券の形態等】

契約型の追加型証券投資信託振替受益権です（以下「受益権」といいます。）。

当初元本は1口当たり1円です。

委託会社の依頼により、信用格付業者から提供もしくは閲覧に供された信用格付、または信用格付業者から提供もしくは閲覧に供される予定の信用格付はありません。

本ファンドの受益権は、社債、株式等の振替に関する法律（以下「社振法」といいます。）の規定の適用を受け、受益権の帰属は、後述の「（11）振替機関に関する事項」に記載の振替機関及び当該振替機関の下位の口座管理機関（社振法第2条に規定する「口座管理機関」をいい、振替機関を含め、以下「振替機関等」といいます。）の振替口座簿に記載または記録されることにより定まります（以下、振替口座簿に記載または記録されることにより定まる受益権を「振替受益権」といいます。）。委託会社は、やむを得ない事情等がある場合を除き、当該振替受益権を表示する受益証券を発行しません。また、振替受益権には無記名式や記名式の形態はありません。

（３）【発行（売出）価額の総額】

継続申込期間 5,000億円を上限とします。

（４）【発行（売出）価格】

継続申込期間 取得申込日の翌営業日の基準価額 とします。

なお、申込みの受付は、原則として販売会社の毎営業日の午後3時までに受付けたものを当日の受付分として取り扱います。この時刻を過ぎて行われる申込みは、翌営業日の取扱いとなります。また、お申込日が米国の取引所 または銀行の休業日となる場合には、原則としてお申込みはできません。

収益分配金の再投資を行う場合は、原則として各計算期間終了日の基準価額とします。

「基準価額」とは、信託財産の純資産総額（信託財産に属する資産（受入担保金代用有価証券および借入有価証券を除きます。）を法令および一般社団法人投資信託協会規則に従い、時価評価を行って得た信託財産の資産総額から負債総額を控除した金額）を、計算日における受益権総口数で除して求めた1口当たりの金額をいいます。基準価額は、組み入れる有価証券等の値動きにより日々変動します。

金融商品取引法第2条第16項に規定する金融商品取引所および金融商品取引法第2条第8項第3号口に規定する外国金融商品市場を「金融商品取引所」といい、金融商品取引所のうち、有価証券の売買または金融商品取引法第28条第8項第3号もしくは同項第5号の取引を行う市場および当該市場を開設するものを「取引所」といいます。以下同じとします。基準価額は、販売会社（下記「（8）申込取扱場所」の項をご参照ください。）にてご確認いただけます。

また、下記においてもご照会いただけます。

ステート・ストリート・グローバル・アドバイザーズ株式会社

電話番号 03 - 4530 - 7333

（受付時間：原則として委託会社の毎営業日午前9時～午後5時）

ホームページアドレス：<http://www.ssga.co.jp/public/nav.htm>

（５）【申込手数料】

取得申込日の翌営業日の基準価額に販売会社が定める率を乗じて得た額とします。

（６）【申込単位】

申込単位は、最低単位を1円単位または1口単位として販売会社がそれぞれ定める単位とします。詳細については販売会社または委託会社の照会先にお問い合わせください。

(7) 【申込期間】

継続申込期間 平成26年11月21日から平成27年11月20日まで。

ただし、お申込みの取扱いは日本における販売会社の営業日に限り行われます。

また、お申込日が米国の取引所または銀行の休業日に当たる場合は、原則としてお申込みはできません。

継続申込期間は、期間満了前に有価証券届出書を提出することによって更新されます。

(8) 【申込取扱場所】

ファンドの申込取扱場所（以下「販売会社」といいます。）については、下記の照会先までお問い合わせください。

ステート・ストリート・グローバル・アドバイザーズ株式会社

電話番号 03 - 4530 - 7333

（受付時間：原則として委託会社の毎営業日午前9時～午後5時）

ホームページアドレス：<http://www.ssga.co.jp/public/nav.htm>

(9) 【払込期日】

受益権の取得申込者は、販売会社が定める期日（くわしくは、販売会社にお問い合わせください。）までに、取得申込代金を支払うものとします。

販売会社は、各取得申込受付日における取得申込金額の総額に相当する金額を、追加信託が行われる日に、委託会社の指定する口座を経由して、受託会社の指定するファンド口座に払い込みます。

(10) 【払込取扱場所】

申込みを受け付けた販売会社とします（上記「(8)申込取扱場所」の項をご参照ください）。

(11) 【振替機関に関する事項】

振替機関は下記の通りです。

株式会社証券保管振替機構

(12) 【その他】

申込みの方法等

当ファンドのお申込みの受付は、申込期間における販売会社の営業日（但し、原則として米国の取引所または銀行の休業日を除きます）に行うことができます。

また、信託財産の運用が円滑に行えるよう、お申込みの受付は販売会社の毎営業日の午後3時までとし、当該受付時間を過ぎた場合は翌営業日の取扱いとさせていただきます。

取得申込みの受付の中止、既に受付けた取得申込の受付の取消し

取引所における取引の停止、外国為替取引の停止その他やむを得ない事情（投資対象国における非常事態（金融危機、デフォルト、重大な政策変更、クーデター等政変、テロリズム、戦争、天災地変等）による市場の閉鎖または流動性の極端な減少ならびに資金の受渡しに関する障害等）があるときは、委託会社の判断により、受益権の取得申込みの受付を中止することおよび既に受付けた取得申込を取り消すことができます。

お申込み代金の利息

お申込み代金には利息を付けません。

本邦以外の地域での発行

該当事項はありません。

振替受益権について

ファンドの受益権は、社振法の規定の適用を受け、上記「(11) 振替機関に関する事項」に記載の振替機関の振替業にかかる業務規程等の規則にしたがって取り扱われるものとします。

ファンドの分配金、償還金、換金代金は、社振法および上記「(11) 振替機関に関する事項」に記載の振替機関の業務規程その他の規則にしたがって支払われます。

(参考)

投資信託振替制度とは

・ファンドの受益権の発生、消滅、移転をコンピュータシステムにて管理します。

- ・ファンドの設定、解約、償還等がコンピュータシステム上の帳簿(「振替口座簿」といいます。)への記載・記録によって行われますので、受益証券は発行されません。

振替制度では、

- ・原則として受益証券を保有することはできなくなります。
- ・受益証券を発行しませんので、盗難や紛失のリスクが削減されます。
- ・ファンドの設定、解約等における決済リスクが削減されます。
- ・振替口座簿に記録されますので、受益権の所在が明確になります。

第二部【ファンド情報】

第1【ファンドの状況】

1【ファンドの性格】

(1)【ファンドの目的及び基本的性格】

当ファンドは主として外国投資信託「SPDR(スパイダー)パークレイズ・ハイ・イールド債券ETF¹」受益証券への投資を通じて、実質的に米ドル建てハイ・イールド債券へ幅広く分散投資することにより、中長期的にパークレイズ・ハイ・イールド・ベリー・リキッド・インデックス²(円ベース)に連動する投資成果の獲得を目指して運用を行います。

1 正式名称：SPDR[®] Barclays High Yield Bond ETF

2 パークレイズ・ハイ・イールド・ベリー・リキッド・インデックスは、正式名称を「Barclays High Yield Very Liquid Index」といい、パークレイズ・ハイ・イールド・ベリー・リキッド・インデックス(円ベース)は、「Barclays High Yield Very Liquid Index」の構成通貨をもとに、投資信託の会計基準に合わせて委託会社が円換算のうえ合成して指数化したものです。

委託会社は、受託会社と合意のうえ、金5,000億円を限度として信託金を追加できるものとします。また委託会社は、受託会社と合意のうえ、当該限度額を変更することができます。

当ファンドが該当する商品分類、属性区分は次の通りです。

商品分類表

| 単位型・追加型 | 投資対象地域 | 投資対象資産 (収益の源泉) | 補足分類 |
|------------|----------------|--|----------------|
| 単位型 追加型 | 国内 海外 内外 | 株式 債券 不動産投信 その他資産 () 資産複合 () | インデックス型 特殊型 |

(注) 当ファンドが該当する商品分類を網掛け表示しています。

当ファンドが該当する商品分類

| 項目 | 該当する商品分類 | 内容 |
|-------------------|----------|--|
| 単位型・追加型 | 追加型 | 一度設定されたファンドであってもその後追加設定が行われ従来の信託財産とともに運用されるファンドをいいます。 |
| 投資対象地域 | 海外 | 目論見書又は投資信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に海外の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。 |
| 投資対象資産 (収益の源泉) | 債券 | 目論見書又は投資信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に債券を源泉とする旨の記載があるものをいいます。 |
| 補足分類 | インデックス型 | 目論見書又は投資信託約款において、各種指数に連動する運用成果を目指す旨の記載があるものをいいます。 |

属性区分表

| 投資対象資産 | 決算頻度 | 投資対象地域 | 投資形態 | 為替ヘッジ | 対象インデックス |
|-------------------------|-------------------|-------------------|---------------|-----------|----------|
| 株式 一般 大型株 中小型株 | 年1回 年2回 年4回 | グローバル 日本 北米 | ファミリー ファンド | あり () | 日経 225 |
| 債券 一般 | 年6回 | 欧州 | | | |

| | | | | | |
|--|------------------------|--------|--------------------------|-----------|---|
| 国債 社債 その他債券 クレジット属性 () | (隔月) | アジア | | | |
| | 年12回 (毎月) | オセアニア | | | TOPIX |
| 不動産投信 | 日々 | 中南米 | ファンド・オブ・ ファンズ | なし | |
| その他資産 (投資信託証券 (債券)) | その他 | アフリカ | | | その他 (パークレイズ・ ハイ・イールド・ ベリー・リキッ ド・インデックス (円ベース)) |
| | () | 中近東 | | | |
| 資産複合 資産配分固定型 資産配分変動型 | | (中東) | | | |
| | | エマージング | | | |

属性区分に記載している「為替ヘッジ」は、対円での為替リスクに対するヘッジの有無を記載しております。

(注) 当ファンドが該当する属性区分を網掛け表示しています。

当ファンドは、「ファンド・オブ・ファンズ方式」で運用を行うため、属性区分におけるファンドの投資対象資産は、「その他資産（投資信託証券（債券）」となり、商品分類における投資対象資産（収益の源泉）である「債券」とは分類・区分が異なります。

当ファンドが該当する属性区分

| 項目 | 該当する属性区分 | 内容 |
|----------|-------------------|--|
| 投資対象資産 | その他資産（投資信託証券（債券）） | 目論見書又は投資信託約款において、株式、債券、不動産投資以外の資産に投資する旨の記載があるものをいい、括弧内の記載は、組入資産を表します。なお、当ファンドにおける組入資産は、投資信託証券です。 |
| 決算頻度 | 年12回（毎月） | 目論見書又は投資信託約款において、年12回（毎月）決算する旨の記載があるものをいいます。 |
| 投資対象地域 | 北米 | 目論見書又は投資信託約款において、組入資産による投資収益が北米地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。 |
| 投資形態 | ファンド・オブ・ファンズ | 一般社団法人投資信託協会が定める「投資信託等の運用に関する規則」第2条に規定するファンド・オブ・ファンズをいいます。 |
| 為替ヘッジ | 為替ヘッジなし | 目論見書又は投資信託約款において、為替のヘッジを行わない旨の記載があるものまたは為替のヘッジを行う旨の記載がないものをいいます。 |
| 対象インデックス | その他 | 「その他」とは日経225またはTOPIXにあてはまらない全てのものをいいます。 |

商品分類、属性区分は、一般社団法人投資信託協会「商品分類に関する指針」に基づき記載しています。商品分類、属性区分の全体的な定義等は一般社団法人投資信託協会のホームページ（<http://www.toushin.or.jp/>）をご覧ください。

ファンドの目的

当ファンドは、主として米ドル建て外国投資信託^{スバイダー}「SPDRバークレイズ・ハイ・イールド債券ETF」受益証券への投資を通じて、実質的に米ドル建てハイ・イールド債券へ幅広く分散投資することにより、中長期的にバークレイズ・ハイ・イールド・ベリリー・リキッド・インデックス(円ベース)に連動する投資成果の獲得を目指して運用を行います。

ファンドの特色

1 米ドル建てハイ・イールド債券市場の動きに連動した投資成果の獲得を目指す外国投資信託を主要投資対象とし、ファンド・オブ・ファンズ方式で運用を行います。

- バークレイズ・ハイ・イールド・ベリリー・リキッド・インデックス¹に連動する投資成果の獲得を目指す外国投資信託^{スバイダー}「SPDRバークレイズ・ハイ・イールド債券ETF」受益証券²を主要投資対象とし、組入比率は原則として高位を維持します。

*1 バークレイズ・ハイ・イールド・ベリリー・リキッド・インデックスは、正式名称を「Barclays High Yield Very Liquid Index」といい、バークレイズ・ハイ・イールド・ベリリー・リキッド・インデックス(円ベース)は、「Barclays High Yield Very Liquid Index」の構成通貨をもとに、投資信託の会計基準に合わせて委託会社が円換算のうえ合成して指数化したものです。

*2 正式名称「SPDR[®] Barclays High Yield Bond ETF」については、後掲「投資対象とする投資信託の概要」をご参照ください。なお、ハイ・イールド債券とは、主要投資格付け機関による格付けがBB格相当以下であるものを言います。



- 主として国債を中心に日本の短期公社債等に投資を行い、安定した投資成果の獲得を目指す親投資信託「ステート・ストリート短期国債マザーファンド」受益証券にも投資を行います。



主な投資制限

1. 外国投資信託^{スバイダー}「SPDRバークレイズ・ハイ・イールド債券ETF」受益証券および親投資信託「ステート・ストリート短期国債マザーファンド」受益証券への投資割合には制限を設けません。
2. 株式の実質投資割合は、転換社債の転換請求および新株予約権の行使により取得可能なものに限られ、信託財産の純資産総額の10%以下とします。
3. 外貨建資産の実質投資割合には制限を設けません。

■ 投資対象とする投資信託の概要

外国投資信託「SPDR^{スプライダー}バークレイズ・ハイ・イールド債券ETF」受益証券

| | |
|------------|--|
| ファンド形態 | 米ドル建て外国投資信託(米国ニューヨーク証券取引所ARCA上場)／オープン・エンド型 |
| 運用の基本方針 | 主として米ドル建てハイ・イールド債券に投資し、バークレイズ・ハイ・イールド・ベリー・リキッド・インデックスのリターンに、費用控除前で、おおむね一致する投資成果を提供することを目指します。 |
| 決算日 | 毎年6月30日 |
| 収益分配方針 | 債券利息等の収益があれば“インカム分配金”として通常は毎月、売買純利益があれば“キャピタル分配金”として少なくとも年1回は支払われる予定ですが、それは投資成果に応じて、もしくは米国の国税収入局の規約に則って決定されます。 |
| 運用報酬等 | 純資産総額に対して年率0.40%程度(運用報酬等は、本書作成日現在における料率であり、将来変更される可能性があります。) |
| 設定日 | 2007年11月28日 |
| 運用会社 | SSgAファンド・マネジメント・インク(SSgA Funds Management, Inc.) |
| アドミニストレーター | ステート・ストリート・バンク・アンド・トラスト・カンパニー (State Street Bank and Trust Company) |

<SSgAファンド・マネジメント・インクの概要>

SSgAファンド・マネジメント・インクは、2001年に米国(マサチューセッツ州ボストン市)において設立された運用会社であり、ステート・ストリート・コーポレーションの100%子会社です。同社は米国証券取引委員会(SEC)に登録された運用会社として、上記の上場投資信託(ETF)を始めとして多くの「SPDR^{スプライダー}トラスト・シリーズ」のETFなどを運用しています。なお、SSgAとは、ステート・ストリート・グローバル・アドバイザーズのイニシャルです。

親投資信託「ステート・ストリート短期国債マザーファンド」受益証券

| | |
|----------|--|
| 【参考】商品分類 | 親投資信託／国内／債券 |
| 運用の基本方針 | 主として国債を中心に日本の短期公社債等に投資し、安定した投資成果の獲得を目指して運用を行います。 |
| 決算日 | 毎年4月15日(ただし、該当日が休日の場合は翌営業日) |
| 収益分配方針 | 収益は償還(信託終了)まで留保し、分配は行いません。 |
| 信託報酬 | ありません。 |
| 設定日 | 2009年7月21日 |
| 委託会社 | ステート・ストリート・グローバル・アドバイザーズ株式会社 |
| 受託会社 | 三井住友信託銀行株式会社 |

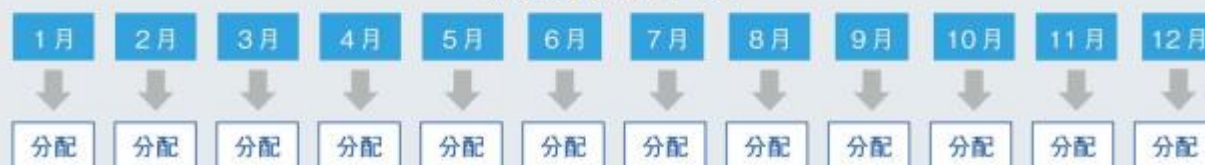
2 外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。

- 米ドル建て外国投資信託の組入部分は、為替変動による影響を受けるため、基準価額は変動します。

3 毎月決算を行い、継続的に収益分配を行うことを目指します。

- 分配金額は、毎月20日(休業日の場合は翌営業日)の決算時に、収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。ただし、分配対象金額が少額の場合は、分配を行わないことがあります。

<収益分配のイメージ>



- 上記はイメージ図であり将来の支払いおよびその金額を保証するものではありません。
- 分配金額については収益分配方針に基づき委託会社が決定します。また分配金が支払われない場合もあります。

追加的記載事項

＜収益分配金に関する留意事項＞

- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。

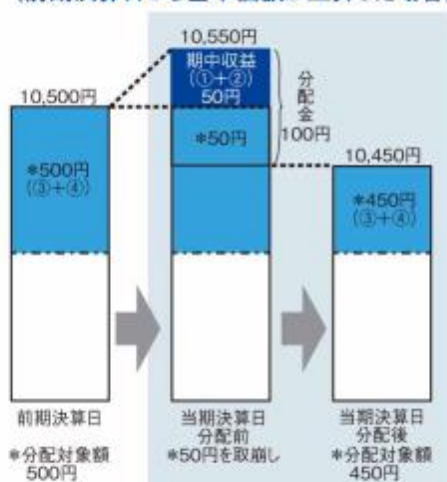
投資信託で分配金が
支払われるイメージ



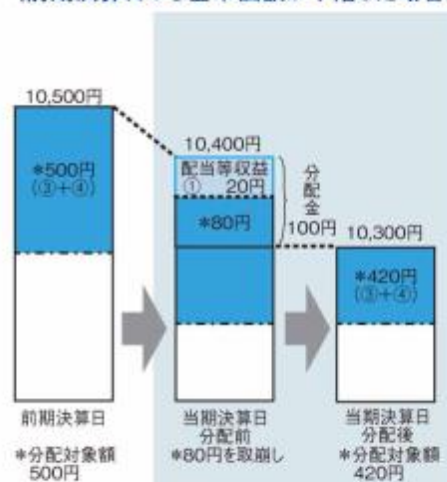
- 分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

(計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合)

(前期決算日から基準価額が上昇した場合)



(前期決算日から基準価額が下落した場合)



(注) 分配対象額は、①経費控除後の配当等収益および②経費控除後の評価益を含む売買益ならびに③分配準備積立金および④収益調整金です。分配金は、分配方針に基づき、分配対象額から支払われます。

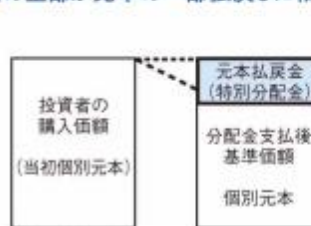
※上記はイメージ図であり、実際の分配金額や基準価額を示唆するものではありませんのでご注意ください。

- 投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部又は全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり小さかった場合も同様です。

(分配金の一部が元本の一部払戻しに相当する場合)



(分配金の全部が元本の一部払戻しに相当する場合)



普通分配金: 個別元本(受益者のファンドの購入価額)を上回る部分からの分配金です。

元本払戻金(特別分配金): 個別元本を下回る部分からの分配金です。分配後の受益者の個別元本は、元本払戻金(特別分配金)の額だけ減少します。

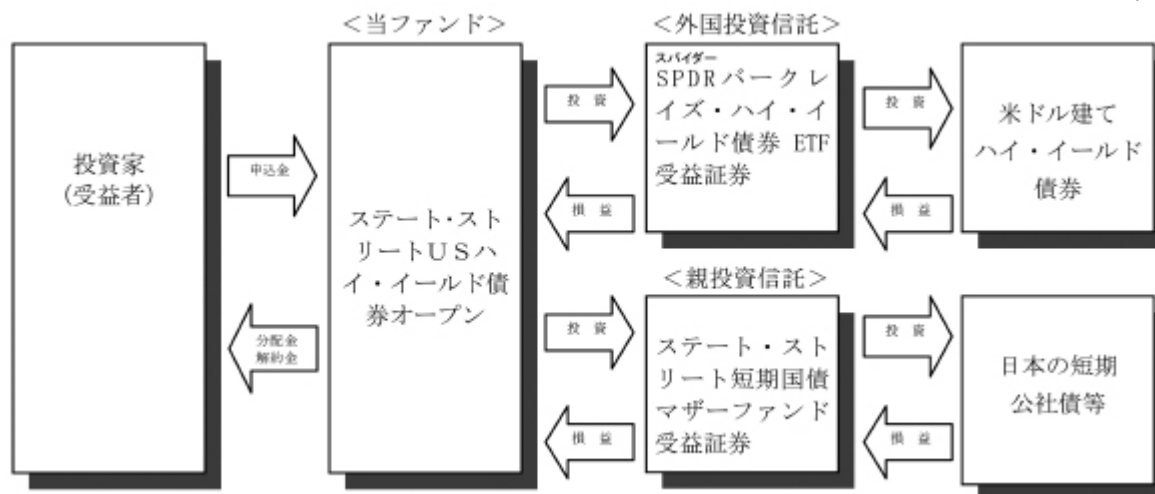
(2) 【ファンドの沿革】

平成23年9月15日 投資信託契約締結、設定、運用開始

(3) 【ファンドの仕組み】

当ファンドは、「ファンド・オブ・ファンズ方式」により運用を行います。

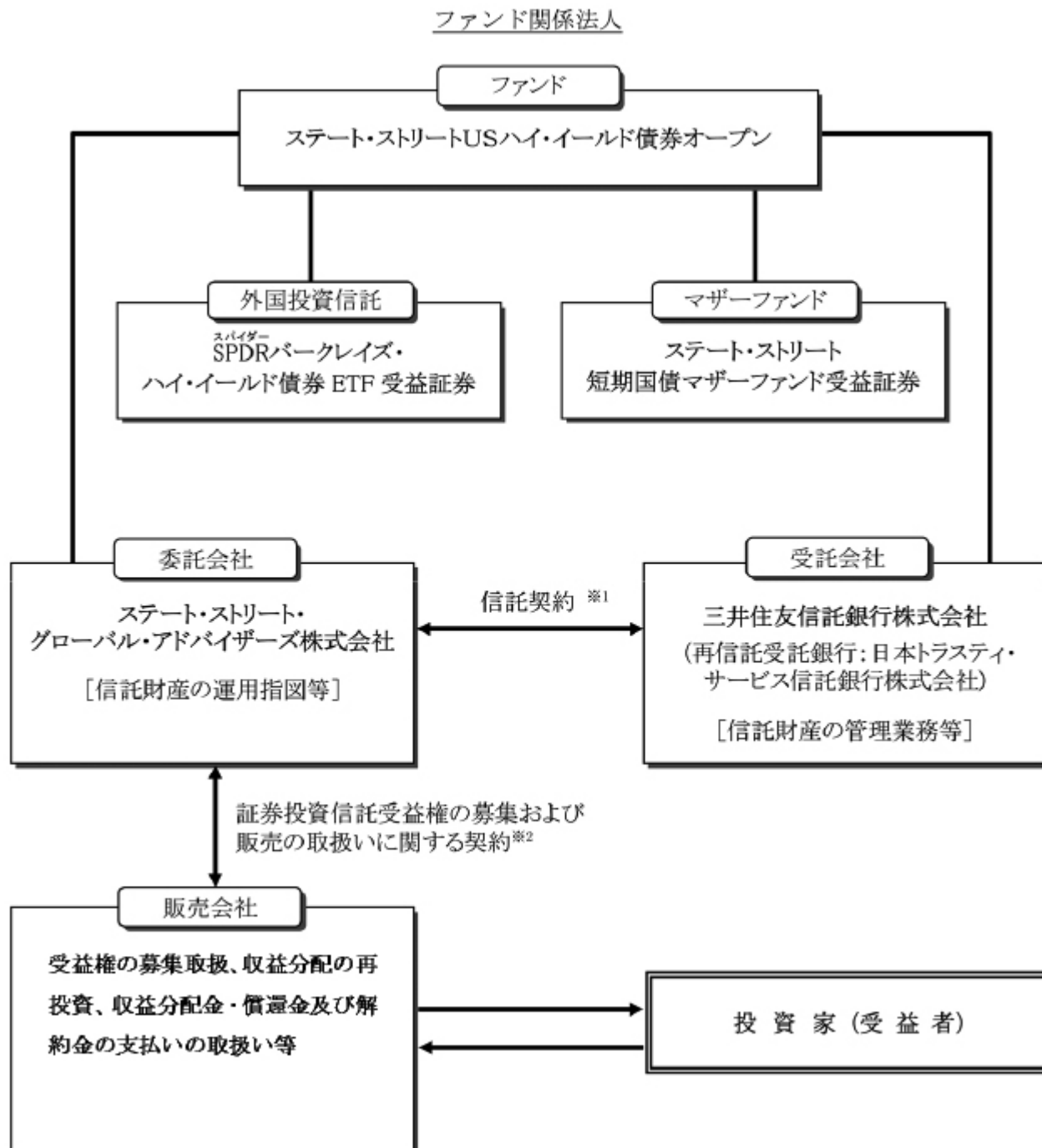
ファンド・オブ・ファンズ方式とは、受益者からの資金を当ファンドにて取りまとめ、その資金を投資対象である外国投資信託「SPDR(スパイダー)パークレイズ・ハイ・イールド債券ETF」受益証券および親投資信託「ステート・ストリート短期国債マザーファンド」受益証券に投資をし、実質的な運用を各投資信託で行う仕組みです。



ファンドの関係法人

ファンドの関係法人は以下のとおりです。

- 1) ステート・ストリート・グローバル・アドバイザーズ株式会社（以下「委託会社」といいます。）
委託会社は、信託財産の運用指図、目論見書および運用報告書の作成等を行います。
- 2) 三井住友信託銀行株式会社（以下「受託会社」といいます。）
(再信託受託会社：日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社)
受託会社は、信託財産の管理業務、信託財産の計算等を行います。また、信託事務の一部につき、日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社と再信託契約を締結し、これを委託することがあります。
- 3) 販売会社
販売会社は、受益権の募集の取扱い、販売、一部解約の実行の請求の受付けならびに収益分配金、一部解約代金および償還金の支払い等を行います。



1 信託契約

委託会社、受託会社および受益者に関する事項、委託会社および受託会社としての業務に関する事項、受益権に関する事項、信託の元本、収益の管理および運営に関する事項等が定められます。

なお、ファンドは、委託会社と受託会社とが信託契約を締結することにより成立します。信託契約は、「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づき、あらかじめ監督官庁に届け出た信託約款の内容に基づいて締結されます。

2 証券投資信託受益権の募集および販売の取扱いに関する契約

販売会社の募集の取扱い、換金の取扱い、償還金の支払いの取扱いに係る事務の内容等が定められます。

委託会社の概況（平成26年9月30日現在）

1) 資本金

3億1千万円

2) 沿革

平成10年2月25日

ステート・ストリート投資顧問株式会社 設立

平成10年3月31日

投資顧問業の登録

平成10年8月28日

ステート・ストリート投信投資顧問株式会社に商号変更

平成10年9月30日

投資一任契約に係る業務の認可

平成10年9月30日 証券投資信託の委託会社としての認可取得
 平成19年9月30日 金融商品取引業者の登録
 平成20年7月 1日 ステート・ストリート・グローバル・アドバイザーズ株式会社に商号
 変更

3) 大株主の状況

(平成26年9月30日現在)

| 氏名又は名称 | 住所 | 所有株式数 | 所有比率 |
|---|--------------------------------------|--------|------|
| ステート・ストリート・グローバル・アドバイザーズ・インターナショナル・ホールディングス・インク | アメリカ合衆国デラウェア州ウィルミントン センターヴィル・ロード2711 | 6,200株 | 100% |

2【投資方針】

(1)【投資方針】

当ファンドは主として米ドル建て外国投資信託「SPDR(スパイダー)パークレイズ・ハイ・イールド債券ETF」受益証券（以下「SPDRハイ・イールドETF」といいます。）への投資を通じて、実質的に米ドル建てハイ・イールド債券へ幅広く分散投資することにより、中長期的にパークレイズ・ハイ・イールド・ベリー・リキッド・インデックス（円ベース）に連動する投資成果の獲得を目指して運用を行います。

パークレイズ・ハイ・イールド・ベリー・リキッド・インデックス（円ベース）をベンチマークとします。

SPDRハイ・イールドETFの組入比率は原則として高位を維持し、ステート・ストリート短期国債マザーファンド受益証券の組入れも行います。

外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。

信託財産に属する資産の効率的な運用に資するため、ならびに価格変動リスクおよび為替変動リスクを回避するため、デリバティブ取引（金融商品取引法第2条第20項に規定するものをいい、約款第19条、第20条および第21条に定めるものに限り、以下同じ。）を行うことができます。

信託財産の効率的な運用に資するため、信託財産に属する有価証券の貸付けを行うことができます。信託財産の効率的な運用ならびに運用の安定性を図るため、一部解約に伴う支払資金の手当て（一部解約に伴う支払資金の手当てのために借入れた資金の返済を含みます。）を目的として、または再投資に係る収益分配金の支払資金の手当てを目的として、資金借入れ（コール市場を通じる場合を含みます。）の指図をすることができます。

大量の追加設定または解約が発生したとき、市況の急激な変化が予想されるとき、償還の準備に入ったときならびに残存元本が運用に支障をきたす水準となったとき等やむを得ない事情が発生した場合には、上記のような運用が行われない場合や、当ファンドの投資目的が達成されない場合があります。

(2)【投資対象】

この信託において投資の対象とする資産の種類は、次に掲げるものとします。

1) 次に掲げる特定資産（「特定資産」とは、投資信託及び投資法人に関する法律第2条第1項で定めるものをいいます。以下同じ。）

- (a) 有価証券
- (b) デリバティブ取引に係る権利（金融商品取引法第2条第20項に規定するものをいい、約款第19条、第20条および第21条に定めるものに限り、以下同じ。）

- (c) 金銭債権
- (d) 約束手形

2) 次に掲げる特定資産以外の資産

- (a) 為替手形

委託会社は、信託金を、主として米ドル建て外国投資信託「SPDR(スパイダー)パークレイズ・ハイ・イールド債券ETF」受益証券およびステート・ストリート・グローバル・アドバイザーズ株式会社を委託会社とし、三井住友信託銀行株式会社を受託会社として締結されたステート・ストリート短期国債マザーファンド（以下「マザーファンド」といいます。）の受益証券（以下「マザーファン

ド受益証券」といいます。) ならびに次の有価証券（金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を除きます。）に投資することを指図します(信託約款第15条)。

- 1) 株券または新株引受権証書
 - 2) 国債証券
 - 3) 地方債証券
 - 4) 特別の法律により法人の発行する債券
 - 5) 社債券(新株引受権証書と社債券とが一体となった新株引受権付社債券(以下「分離型新株引受権付社債券」といいます。))の新株引受権証券を除きます。)
 - 6) 特定目的会社に係る特定社債券(金融商品取引法第2条第1項第4号で定めるものをいいます。)
 - 7) 特別の法律により設立された法人の発行する出資証券(金融商品取引法第2条第1項第6号で定めるものをいいます。)
 - 8) 協同組織金融機関に係る優先出資証券(金融商品取引法第2条第1項第7号で定めるものをいいます。)
 - 9) 特定目的会社に係る優先出資証券(金融商品取引法第2条第1項第8号で定めるものをいいます。)
 - 10) コマーシャル・ペーパー
 - 11) 新株引受権証券(分離型新株引受権付社債券の新株引受権証券を含みます。以下同じ。))および新株予約権証券
 - 12) 外国または外国の者の発行する証券または証書で、前号までの証券または証書の性質を有するもの
 - 13) 投資信託または外国投資信託の受益証券(金融商品取引法第2条第1項第10号で定めるものをいいます。)
 - 14) 投資証券もしくは投資法人債券または外国投資証券(金融商品取引法第2条第1項第11号で定めるものをいいます。)
 - 15) 外国貸付債権信託受益証券(金融商品取引法第2条第1項第18号で定めるものをいいます。)
 - 16) オプションを表示する証券または証書(金融商品取引法第2条第1項第19号で定めるものをいい、有価証券に係るものに限ります。)
 - 17) 預託証書(金融商品取引法第2条第1項第20号で定めるものをいいます。)
 - 18) 外国法人が発行する譲渡性預金証書
 - 19) 貸付債権信託受益権であって金融商品取引法第2条第1項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に表示されるべきもの
 - 20) 外国の者に対する権利で前号の有価証券の性質を有するもの
 - 21) 指定金銭信託の受益証券(金融商品取引法第2条第1項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に限ります。)
 - 22) 抵当証券(金融商品取引法第2条第1項第16号で定めるものをいいます。)
- なお、上記1)の証券または証書、上記12)および17)の証券または証書のうち上記1)の証券または証書の性質を有するものを以下「株式」といい、上記2)から6)までの証券ならびに上記12)および17)の証券または証書のうち上記2)から6)までの証券の性質を有するものを以下「公社債」といい、上記13)の証券および14)の証券を以下「投資信託証券」といいます。

委託会社は、信託金を、上記 に掲げる有価証券のほか、次に掲げる金融商品により運用することを指図することができます(信託約款第15条第2項)。

- 1) 預金
- 2) 指定金銭信託(金融商品取引法第2条第1項第14号に規定する受益証券発行信託を除きます。)
- 3) コール・ローン
- 4) 手形割引市場において売買される手形

上記 の規定にかかわらず、この信託の設定、解約、償還、投資環境の変動等への対応等、委託会社が運用上必要と認めるときには、委託会社は、信託金を、上記 に掲げる金融商品により運用することの指図ができます(信託約款第15条第3項)。

委託会社は、信託財産に属する投資信託証券(マザーファンド受益証券および上場投資信託証券(取引所に上場等され、かつ当該取引所において常時売却可能(市場急変等により一時的に流動性が低下している場合を除きます。))な投資信託証券)を除きます。)の時価総額とマザーファンドの信託財産に属する投資信託証券(上場投資信託証券を除きます。以下同じ。)の時価総額のうち信託財産に

属するとみなした額との合計額が、信託財産の純資産総額の100分の5を超えることとなる投資の指図をしません。

委託会社は、信託財産に属する新株引受権証券および新株予約権証券の時価総額とマザーファンドの信託財産に属する新株引受権証券および新株予約権証券の時価総額のうち信託財産に属するとみなした額との合計額が、信託財産の純資産総額の100分の10を超えることとなる投資の指図をしません。委託会社は、信託財産に属する株式の時価総額とマザーファンドの信託財産に属する株式の時価総額のうち信託財産に属するとみなした額との合計額が、信託財産の純資産総額の100分の10を超えることとなる投資の指図をしません。

上記 から において信託財産に属するとみなした額とは、信託財産に属するマザーファンド受益証券の時価総額にマザーファンドの信託財産の純資産総額に占める投資信託証券、新株引受権証券および新株予約権証券ならびに株式の時価総額の割合を乗じて得た額をいいます。

< 投資対象とする投資信託の概要 >

外国投資信託「SPDR（スパイダー）パークレイズ・ハイ・イールド債券ETF」受益証券

| | |
|------------|--|
| ファンド形態 | 米ドル建て外国投資信託（米国ニューヨーク証券取引所ARCA上場）/オープン・エンド型 |
| 運用の基本方針 | 主として米ドル建てハイ・イールド債券に投資し、パークレイズ・ハイ・イールド・ベリー・リキッド・インデックスのリターンに、費用控除前で、おおむね一致する投資成果を提供することを目指します。 |
| 決算日 | 毎年6月30日 |
| 収益分配方針 | 債券利息等の収益があれば“インカム分配金”として通常は毎月、売買純利益があれば“キャピタル分配金”として少なくとも年1回は支払われる予定ですが、それは投資成果に応じて、もしくは米国の国税収入局の規約に則って決定されます。 |
| 運用報酬等 | 純資産総額に対して年率0.40%程度（運用報酬等は、本書作成日現在における料率であり、将来変更される可能性があります。） |
| 設定日 | 2007年11月28日 |
| 運用会社 | SSgA ファンド・マネジメント・インク（SSgA Funds Management, Inc.） |
| アドミニストレーター | ステート・ストリート・バンク・アンド・トラスト・カンパニー（State Street Bank and Trust Company） |

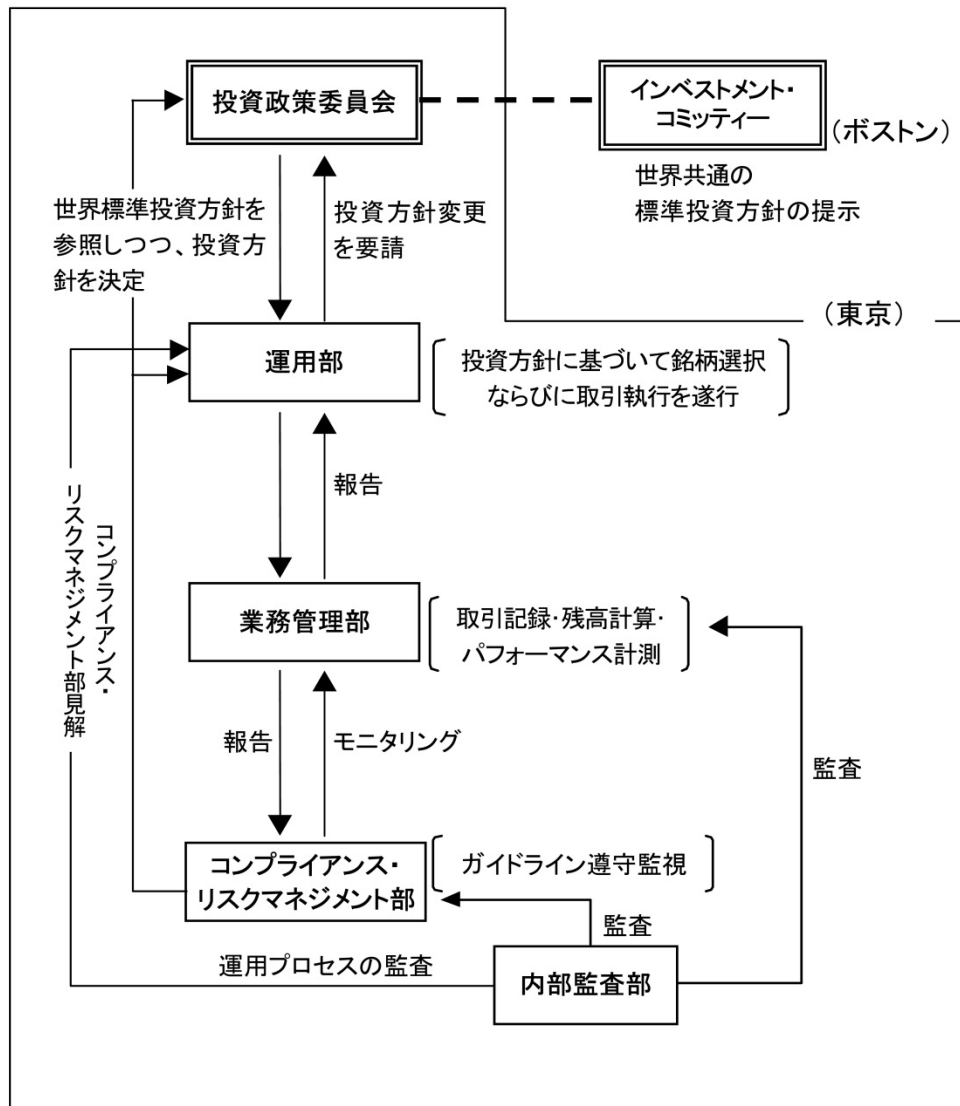
< SSgAファンド・マネジメント・インクの概要 >

SSgAファンド・マネジメント・インクは、2001年に米国（マサチューセッツ州ボストン市）において設立された運用会社であり、ステート・ストリート・コーポレーションの100%子会社です。同社は米国証券取引委員会（SEC）に登録された運用会社として、上記の上場投資信託（ETF）を始めとして多くの「SPDR（スパイダー）トラスト・シリーズ」のETFなどを運用しています。なお、SSgAとは、ステート・ストリート・グローバル・アドバイザーズのイニシャルです。

親投資信託「ステート・ストリート短期国債マザーファンド」受益証券

| | |
|----------|--|
| 〔参考〕商品分類 | 親投資信託 / 国内 / 債券 |
| 運用の基本方針 | 主として国債を中心に日本の短期公社債等に投資し、安定した投資成果の獲得を目指して運用を行います。 |
| 決算日 | 毎年4月15日（ただし、該当日が休日の場合は翌営業日） |
| 収益分配方針 | 収益は償還（信託終了）まで留保し、分配は行いません。 |
| 信託報酬 | ありません。 |
| 設定日 | 2009年7月21日 |
| 委託会社 | ステート・ストリート・グローバル・アドバイザーズ株式会社 |
| 受託会社 | 三井住友信託銀行株式会社 |

(3) 【運用体制】



委託会社において、運用部の各ファンド担当者がそのポートフォリオ管理、運用モデル/プロセスの改善の任に就いていますが、常にボストン本社を中心とした海外拠点の当該ストラテジーに関わる運用担当者と意見・情報交換を行いながら、モデルの問題点・改善点、パフォーマンス、市場・運用情報などにつきコミュニケーションを保っています。

運用の報告は、委託会社の投資政策委員会に対してなされます。投資政策委員会は、チーフ・インベストメント・オフィサー、各運用戦略責任者、業務管理部責任者、コンプライアンス責任者等により構成されています。なお、投資政策委員会においては、各ファンドのパフォーマンス、取引先別の売買高、売買手数料などを確認し、ガイドラインからの乖離や、同一戦略のファンド間でのパフォーマンスの乖離状況等の報告を受けます。

上記運用体制は平成26年9月30日現在のものであり、今後変更となる場合があります。

(4) 【分配方針】

収益分配方針

毎決算時（原則として毎月20日。ただし、該当日が休日の場合は翌営業日）に、原則として次のとおり収益分配を行う方針です。

分配対象額は経費控除後の利子、配当収入および売買益（評価益を含みます。）等の範囲内とします。

分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。ただし、分配対象金額が少額の場合には分配を行わないことがあります。

留保益の運用については、特に制限を設けず、委託会社の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。

なお、上記は収益分配方針であり、将来の分配金の支払いについて保証するものではありません。

< 収益分配金に関する留意事項 >

- ・ 分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。
- ・ 分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。
- ・ 投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部又は全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりがかさかった場合も同様です。

(5) 【投資制限】

信託約款の「運用の基本方針」に定める投資制限

- 1) SPDRハイ・イールドETFおよびマザーファンド受益証券の投資割合には制限を設けません。
- 2) 株式への投資は、転換社債の転換請求および新株予約権（会社法第236条第1項第3号の財産が当該新株予約権付社債についての社債であって当該社債と当該新株予約権がそれぞれ単独で存在し得ないことをあらかじめ明確にしているもの（以下会社法施行前の旧商法第341条ノ3第1項第7号および第8号の定めがある新株予約権付社債を含め「転換社債型新株予約権付社債」といいます。）の新株予約権に限り、）の行使により取得可能なものに限り、実質投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以下とします。
- 3) 投資信託証券（マザーファンド受益証券および上場投資信託証券を除きます。）の実質投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以下とします。
- 4) 外貨建資産の実質投資割合には制限を設けません。
- 5) 新株引受権証券および新株予約権証券の実質投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以下とします。
- 6) デリバティブ取引は、下記 2)、3)、4)の範囲で行います。

信託約款上のその他の投資制限

- 1) 投資する株式等の範囲(信託約款第18条)
委託会社が投資することを指図する株式は、転換社債の転換請求および新株予約権（会社法第236条第1項第3号の財産が当該新株予約権付社債についての社債であって当該社債と当該新株予約権がそれぞれ単独で存在し得ないことをあらかじめ明確にしているもの（以下会社法施行前の旧商法第341条ノ3第1項第7号および第8号の定めがある新株予約権付社債を含め「転換社債型新株予約権付社債」といいます。）の新株予約権に限り、）の行使により取得可能なものに限り、取引所に上場されている株式の発行会社の発行するもの、または取引所に準ずる市場において取引されている株式の発行会社の発行するもの（上場予定または登録予定の株式で目論見書等において上場または登録されることが確認できるものを含みます。）とします。ただし、株主割当または社債権者割当により取得する株式については、この限りではありません。
- 2) 先物取引等の運用指図(信託約款第19条)
 - (a) 委託会社は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資するため、ならびに価格変動リスクおよび為替変動リスクを回避するため、わが国の取引所における有価証券先物取引（金融商品取引法第28条第8項第3号イに掲げるものをいいます。）、有価証券指数等先物取引（金融商品取引法第28条第8項第3号ロに掲げるものをいいます。）および有価証券オプション取引（金融商品取引法第28条第8項第3号ハに掲げるものをいいます。）ならびに外国の取引所におけるこれらの取引と類似の取引を行うことの指図をすることができます。なお、選択権取引はオプション取引に含めるものとします（以下同じ。）。)
 - (b) 委託会社は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資するため、ならびに価格変動リスクおよび為替変動リスクを回避するため、わが国の取引所における通貨に係る先物取引およびオプション取引ならびに外国の取引所における通貨に係る先物取引およびオプション取引を行うことの指図をすることができます。
 - (c) 委託会社は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資するため、ならびに価格変動リスクおよび為替変動リスクを回避するため、わが国の取引所における金利に係る先物取引およ

びオプション取引ならびに外国の取引所におけるこれらの取引と類似の取引を行うことの指図をすることができます。

3) スワップ取引の運用指図(信託約款第20条)

- (a) 委託会社は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資するため、ならびに価格変動リスクおよび為替変動リスクを回避するため、異なった通貨、異なった受取り金利または異なった受取り金利とその元本を一定の条件のもとに交換する取引(以下「スワップ取引」といいます。)を行うことの指図をすることができます。
- (b) スワップ取引の指図にあたっては、当該取引の契約期限が、原則として当ファンドの信託期間を超えないものとします。ただし、当該取引が当該信託期間内で全部解約可能なものについてはこの限りではありません。
- (c) スワップ取引の指図にあたっては、当該信託財産に係るスワップ取引の想定元本の総額とマザーファンドの信託財産に係るスワップ取引の想定元本の総額のうち当該信託財産に属するとみなした額との合計額(以下「スワップ取引の想定元本の合計額」といいます。)が、信託財産の純資産総額を超えないものとします。なお、信託財産の一部解約等の事由により、上記純資産総額が減少してスワップ取引の想定元本の合計額が信託財産の純資産総額を超えることとなった場合には、委託会社は速やかに、その超える額に相当するスワップ取引の一部解約を指図するものとします。
- (d) 上記(c)においてマザーファンドの信託財産に係るスワップ取引の想定元本の総額のうち信託財産に属するとみなした額とは、マザーファンドの信託財産に係るスワップ取引の想定元本の総額にマザーファンドの信託財産の純資産総額に占める信託財産に属するマザーファンド受益証券の時価総額の割合を乗じて得た額をいいます。
- (e) スワップ取引の評価は、当該取引契約の相手方が市場実勢金利等をもとに算定した価額で評価するものとします。
- (f) 委託会社は、スワップ取引を行うにあたり担保の提供あるいは受入れが必要と認めるときは、担保の提供あるいは受入れの指図を行うものとします。

4) 金利先渡取引および為替先渡取引の運用指図(信託約款第21条)

- (a) 委託会社は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資するため、ならびに価格変動リスクおよび為替変動リスクを回避するため、金利先渡取引および為替先渡取引を行うことの指図をすることができます。
- (b) 金利先渡取引および為替先渡取引の指図にあたっては、当該取引の決済日が、原則として当ファンドの信託期間を超えないものとします。ただし、当該取引が当該信託期間内で全部解約が可能なものについてはこの限りではありません。
- (c) 金利先渡取引および為替先渡取引の評価は、当該取引契約の相手方が市場実勢金利等をもとに算定した価額で評価するものとします。
- (d) 委託会社は、金利先渡取引および為替先渡取引を行うにあたり担保の提供あるいは受入れが必要と認めるときは、担保の提供あるいは受入れの指図を行うものとします。

5) 有価証券の貸付の指図および範囲(信託約款第22条)

- (a) 委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、信託財産に属する有価証券を貸付けることの指図をすることができます。
- (b) 委託会社は、有価証券の貸付にあたって必要と認めるときは、担保の受入れの指図を行うものとします。

6) 公社債の空売りの指図範囲(信託約款第23条)

- (a) 委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、信託財産の計算においてする信託財産に属さない公社債を売付けることの指図をすることができます。なお、当該売付けの決済については、公社債(信託財産により借入れた公社債を含みます。)の引渡しまたは買戻しにより行うことの指図をすることができるものとします。
- (b) 上記(a)の売付けの指図にあたっては、当該売付けに係る公社債の時価総額が信託財産の純資産総額の範囲内とします。
- (c) 信託財産の一部解約等の事由により、上記(b)の売付けに係る公社債の時価総額が信託財産の純資産総額を超えることとなった場合には、委託会社は速やかに、その超える額に相当する売付けの一部を決済するための指図をするものとします。

7) 公社債の借入れ(信託約款第24条)

- (a) 委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、公社債の借入れの指図をすることができます。なお、当該公社債の借入れを行うにあたり担保の提供が必要と認めるときは、担保の提供の指図を行うものとします。
 - (b) 上記(a)の指図にあたっては、当該借入れに係る公社債の時価総額が信託財産の純資産総額の範囲内とします。
 - (c) 信託財産の一部解約等の事由により、上記(b)の借入れに係る公社債の時価総額が信託財産の純資産総額を超えることとなった場合には、委託会社は速やかに、その超える額に相当する借入れた公社債の一部を返還するための指図をするものとします。
 - (d) 上記(a)の借入れに係る品借料は信託財産中から支弁します。
- 8) 特別の場合の外貨建有価証券への投資制限(信託約款第25条)
外貨建有価証券への投資については、わが国の国際収支上の理由等により特に必要と認められる場合には、制約されることがあります。
- 9) 外国為替予約取引の指図および範囲(信託約款第26条)
- (a) 委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、ならびに信託財産に属する外貨建資産の額とマザーファンドの信託財産に属する外貨建資産のうち信託財産に属するとみなした額との合計額についての為替変動リスクを回避するため、もしくはベンチマークとの連動性を維持するため、外国為替の売買の予約取引の指図をすることができます。
 - (b) 上記(a)の予約取引の指図は、原則として信託財産に係る為替の買予約の合計額と売予約の合計額との差額につき円換算した額が、信託財産の純資産総額を超えないものとします。ただし、信託財産に属する外貨建資産の額とマザーファンドの信託財産に属する外貨建資産のうち信託財産に属するとみなした額との合計額の為替変動リスクを回避するため、もしくはベンチマークとの連動性を維持するための当該予約取引の指図については、この限りではありません。
 - (c) 上記(b)の限度額を超えることとなった場合には、委託会社は所定の期間内にその超える額に相当する為替予約の一部を解消するための外国為替の売買の予約取引の指図をするものとします。
 - (d) 上記(a)および(b)において信託財産に属するとみなした額とは、信託財産に属するマザーファンド受益証券の時価総額にマザーファンドの信託財産の純資産総額に占める外貨建資産の時価総額の割合を乗じて得た額をいいます。

(参考)「ステート・ストリート短期国債マザーファンド」の投資方針の概要

当ファンドが主たる投資対象とする「ステート・ストリート短期国債マザーファンド」には、当ファンドと同様の投資リスクがあります。「ステート・ストリート短期国債マザーファンド」の投資方針の概要は、以下の通りです。

(1) 基本方針

この投資信託は、主として国債を中心に日本の短期公社債等に投資を行い、安定した投資成果の獲得をめざして運用を行います。

(2) 運用方法

1. 投資対象

日本の短期公社債等を主要投資対象とします。

2. 投資態度

満期1年以内の日本の国債を主要投資対象とします。

公社債の組入比率は原則として高位を維持します。

信託財産に属する資産の効率的な運用に資するため、ならびに価格変動リスクを回避するため、国内において行われるデリバティブ取引(金融商品取引法第2条第20項に規定するものをいい、約款第16条、第17条および第18条に定めるものに限り、)を行うことができます。

信託財産の効率的な運用に資するため、信託財産に属する有価証券の貸付けを行うことができます。大量の追加設定または解約が発生したとき、市況の急激な変化が予想されるとき、償還の準備に入ったときならびに残存元本が運用に支障をきたす水準となったとき等やむを得ない事情が発生した場合には、上記のような運用が行われない場合や、当ファンドの投資目的が達成されない場合があります。

(3) 投資対象

この信託において投資の対象とする資産の種類は、次に掲げるものとします。

- 1) 次に掲げる特定資産（「特定資産」とは、投資信託及び投資法人に関する法律第2条第1項で定めるものをいいます。以下同じ。）
 - (a) 有価証券
 - (b) デリバティブ取引に係る権利（金融商品取引法第2条第20項に規定するものをいい、約款第16条、第17条および第18条に定めるものに限ります。以下同じ。）
 - (c) 金銭債権
 - (d) 約束手形
- 2) 次に掲げる特定資産以外の資産
 - (a) 為替手形

委託会社は、信託金を、主として次の有価証券（金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を除きます。）に投資することを指図します。

- 1) 株券または新株引受権証書
- 2) 国債証券
- 3) 地方債証券
- 4) 特別の法律により法人の発行する債券
- 5) 社債券（新株引受権証券と社債券とが一体となった新株引受権付社債券（以下「分離型新株引受権付社債券」といいます。）の新株引受権証券を除きます。）
- 6) 特定目的会社に係る特定社債券（金融商品取引法第2条第1項第4号で定めるものをいいます。）
- 7) 特別の法律により設立された法人の発行する出資証券（金融商品取引法第2条第1項第6号で定めるものをいいます。）
- 8) 協同組織金融機関に係る優先出資証券（金融商品取引法第2条第1項第7号で定めるものをいいます。）
- 9) 特定目的会社に係る優先出資証券（金融商品取引法第2条第1項第8号で定めるものをいいます。）
- 10) コマーシャル・ペーパー
- 11) 新株引受権証券（分離型新株引受権付社債券の新株引受権証券を含みます。以下同じ。）および新株予約権証券
- 12) 投資信託の受益証券（金融商品取引法第2条第1項第10号で定めるものをいいます。）
- 13) 投資証券もしくは投資法人債券（金融商品取引法第2条第1項第11号で定めるものをいいます。）
- 14) オプションを表示する証券または証書（金融商品取引法第2条第1項第19号で定めるものをいい、有価証券に係るものに限ります。）
- 15) 預託証書（金融商品取引法第2条第1項第20号で定めるものをいいます。）
- 16) 貸付債権信託受益権であって金融商品取引法第2条第1項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に表示されるべきもの
- 17) 指定金銭信託の受益証券（金融商品取引法第2条第1項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に限ります。）
- 18) 抵当証券（金融商品取引法第2条第1項第16号で定めるものをいいます。）

なお、上記1)の証券または証書、上記15)の証券のうち上記1)の証券または証書の性質を有するものを以下「株式」といい、上記2)から6)までの証券ならびに上記15)の証券のうち上記2)から6)までの証券の性質を有するものを以下「公社債」といい、上記12)および13)の証券を以下「投資信託証券」といいます。

委託会社は、信託金を、上記 に掲げる有価証券のほか、次に掲げる金融商品により運用することを指図することができます。

- 1) 預金
- 2) 指定金銭信託（金融商品取引法第2条第1項第14号に規定する受益証券発行信託を除きます。）
- 3) コール・ローン
- 4) 手形割引市場において売買される手形

上記 の規定にかかわらず、この信託の設定、解約、償還、投資環境の変動等への対応等、委託会社が運用上必要と認めるときには、委託会社は、信託金を、上記 に掲げる金融商品により運用することの指図ができます。

委託会社は、信託財産に属する株式の時価総額が、信託財産の純資産総額の100分の10を超えることとなる投資の指図をしません。

委託会社は、信託財産に属する新株引受権証券および新株予約権証券の時価総額が、信託財産の純資産総額の100分の10を超えることとなる投資の指図をしません。

委託会社は、信託財産に属する投資信託証券の時価総額が、信託財産の純資産総額の100分の5を超えることとなる投資の指図をしません。

(4) 主な投資制限

公社債の投資割合には制限を設けません。

満期1年を超える公社債への投資は行いません。

株式への投資は、転換社債の転換請求および新株予約権（会社法第236条第1項第3号の財産が当該新株予約権付社債についての社債であって当該社債と当該新株予約権がそれぞれ単独で存在し得ないことをあらかじめ明確にしているもの（以下会社法施行前の旧商法第341条ノ3第1項第7号および第8号の定めがある新株予約権付社債を含め「転換社債型新株予約権付社債」といいます。）の新株予約権に限り、）の行使により取得可能なものに限り、投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以下とします。

投資信託証券の投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以下とします。

外貨建資産への投資は行いません。

デリバティブ取引は、約款第16条、第17条および第18条の範囲で行います。

ベンチマークについて

パークレイズ・ハイ・イールド・ベリール・リキッド・インデックス

パークレイズ・ハイ・イールド・ベリール・リキッド・インデックスは、パークレイズ・インクおよびその関連会社（以下、総称して「パークレイズ」といいます。）の商標であり、ステート・ストリート・グローバル・アドバイザーズ株式会社（以下、「SSgA」といいます。）は使用許諾を得ています。当ファンドは、パークレイズによって支持、保証、販売、販売促進されるものではありません。パークレイズは、特定の情報、データ、トレードマーク、トレードネームの所有者であり、当ファンドの所有者または不特定多数の公衆に対して、明示的にも暗示的にも、有価証券全般の投資適合性について何ら表明または保証するものではありません。当インデックスは、SSgAおよび当ファンドが関与することなく、パークレイズによって決定、作成、計算されます。パークレイズは、当インデックスに関する決定、作成および計算について、SSgAおよび当ファンドの保有者の要望等を考慮せずに行いません。

パークレイズは、当ファンドの発行時期、発行価格または発行数量の決定について、また、当ファンドを現金に償還する計算について責任を負うものではなく、参加しておりません。パークレイズは、当ファンドの管理、マーケティングまたは売買に関する義務または責任を何ら負うものではありません。

パークレイズは、当インデックスおよびそれに含まれるデータ、あるいは、当インデックスの使用許諾に基づいてSSgA、当ファンド、その他いかなる者が当インデックスから得たデータに対し、その品質、正確性、完全性について、いかなる責任も負わないものとします。パークレイズは、当インデックスまたはそれに含まれる一切のデータに関して、商品性または特定の目的・使用における適合性を明示的にも暗示的にも保証するものではなく、かつ、それら一切の保証を免除されることをここに明示します。

前記事項を制限することなく、たとえ特別な損害、懲罰的損害、間接的損害、拡大的損害（逸失利益を含む。）につき、その可能性について知らせを受けていたとしても、パークレイズは、いかなる場合においてもかかる損害について責任を負いません。

3【投資リスク】

(1) ファンドのリスク特性

当ファンドは、主に外国投資信託への投資を通じて、実質的に米ドル建てハイ・イールド債券に投資を行いますが、主として以下に掲げる要因等により基準価額が大きく変動する場合がありますので、受益権のお申込者はこの点を充分にご理解頂いたうえ、当ファンドの受益権へのお申込みを行って下さい。なお、当ファンドは、金融機関の預金とは異なり、元本が保証されている商品ではなく、信託財産に生じた利益および損失は、すべて当ファンドの受益者に帰属します。

金利変動リスク

公社債等（ハイ・イールド債券を含む。以下同じ。）の価格は、一般に金利が上昇した場合には下落し、金利が下落した場合には上昇します（価格の変動幅は、残存期間、発行体、公社債の種類等により異なります。）。従って、金利が上昇した場合、当ファンドが実質的に保有する公社債等の価格が下落し、基準価額が下落する要因となります。

なお、ハイ・イールド債券は、一般に信用度が高い高格付けの債券と比較して、相対的に高い利回りを享受することが期待できる一方で、価格が大きく変動する傾向があると考えられています。

信用リスク

公社債等の発行体の経営・財務状況の変化およびそれらに関する外部評価の変化等、信用状況によって公社債等の価格は変動します。特に、発行体が財政難、経営不安等により、利息および償還金をあらかじめ決定された条件で支払うことができなくなった場合（債務不履行）、またはできなくなることが予想される場合には、大きく下落します（利息および償還金が支払われないこともあります。）。従って、このような状態が生じた場合には、当ファンドが実質的に保有する公社債等の価格が下落し、基準価額が下落する要因となります。

なお、ハイ・イールド債券は、一般に信用度が高い高格付けの債券と比較して、債務不履行および支払遅延が生じるリスクが高いと考えられています。

また、当ファンドの資産をコール・ローン、譲渡性預金等の短期金融商品で運用する場合（投資信託またはマザーファンドへの投資を通じて実質的に運用する場合を含む）にも、債務不履行などによ

り損失が発生することがあります。運用資産の規模等によっては、当ファンドの基準価額が大きく変動する可能性があります。

為替リスク

当ファンドの主要投資対象である投資信託は外貨建て（実質的に保有する公社債等も外貨建て）であり、また当ファンドは外貨建資産について原則として為替ヘッジを行いませんので、当ファンドの基準価額は為替変動の影響を受けます。

流動性リスク

投資対象となる有価証券の市場規模や取引量が少ない状況や解約資金を手当てするために実質的に保有する有価証券を大量に売却しなければならない状況においては、有価証券の取得、売却時の売買価格は取引量の大きさに影響を受け、市場実勢から期待できる価格どおりに取引できないリスク、評価価格どおりに売却できないリスク、あるいは価格の高低に関わらず取引量が限られてしまうリスクがあり、その結果、不測の損失を被るリスクがあります。

なお、ハイ・イールド債券は、一般に信用度が高い高格付けの債券と比較して、市場規模や取引量が小さく、流動性が低いため、本来の投資価値とは乖離した価格水準で取引される場合もあり、価格が大きく変動する傾向があると考えられています。

また、解約資金の手当てが間に合わず、売却した有価証券等の売却代金回収までの期間、一時的に当ファンドで資金借入を行うことによって解約金の支払いに対応する場合があります、その場合の借入金利は当ファンドが負担することになります。

ファンド・オブ・ファンズ方式のリスク

当ファンドは、複数の投資信託に投資するファンド・オブ・ファンズ方式で運用を行いますが、当ファンドの信託期間が終了する以前に、主要投資対象とする投資信託が存続しないこととなった場合や組入ができなくなった場合には当ファンドは繰上償還となります。

また、投資対象の投資信託が上場されている場合は、市場規模や取引量が少ない状況や解約資金を手当てするために実質的に保有する投資信託を大量に売却しなければならない状況においては、投資信託の取得、売却時の売買価格は取引量の大きさに影響を受け、市場実勢から期待できる価格どおりに取引できないリスク、評価価格どおりに売却できないリスク、あるいは価格の高低に関わらず取引量が限られてしまうリスクがあり、その結果、不測の損失を被るリスクがあります。

一方、上場されていない場合は、他の投資家による追加設定・解約等に伴う資金変動等があり、その結果、当投資信託において有価証券の売買等が行われた場合等には、その売買による組入有価証券等の価格の変化や売買手数料等の負担が当投資信託の基準価額に影響を及ぼすことがあるため、これにより、当ファンドの基準価額に影響を及ぼす場合があります。

資産担保証券のリスク

MBS、ABS等（資産担保証券）の期限前償還リスクを伴う債券は、資産担保証券の原資産となっている住宅ローンや自動車ローン等は、一般的に金利が低下すると借換えによる返済が増え、逆に金利が上昇すると借換えによる返済が減少する傾向があります（期限前返済は金利変動の他にも様々な要因の影響を受けます。）。一般的に金利が低下した場合、低金利ローンへの借換えが増加することにより資産担保証券の期限前償還が増加し、当初期待した利回りでの再投資ができない可能性、もしくは証券を額面価額より高く購入している場合、償還損を被る可能性等があります。こうした要因により当ファンドの基準価額が下落することがあります。なお、金利変動の価格に影響を与える度合いは、個々の資産担保証券の特性によっても異なります。

MBSは多数の住宅ローンを担保として発行されますので、担保となる住宅ローンの中にはいわゆるサブプライムローン（信用力の低い個人向け住宅融資）と考えられる信用力の低いものも一部含まれています。また、資産担保証券の価格は、発行体の信用状況によっても変動します。特に、発行体が財政難、経営不安等により、利息および償還金をあらかじめ決定された条件で支払うことができなくなった場合（債務不履行）、または、できなくなることが予想される場合には、資産担保証券の価格が大きく下落することもあります（債務不履行の場合、予定されていた利息および償還金が支払われないこともあります。）。

資産担保証券を売買しようとする際に、市場の流動性が著しく低下している場合があります。この場合、資産担保証券の価格が大きく変動することがあり、これに伴い当ファンドの基準価額が大きく乱高下することがあります。

投資対象国への投資リスク

当ファンドが実質的に保有する有価証券の発行国（投資対象国）における政治不安や社会不安、あるいは他国との外交関係の悪化などの要因により、投資成果に大きく影響することがあります。また、投資対象国の政府当局による、海外からの投資規制や課徴的な税制、海外からの送付金規制など

の様々な規制の導入や政策変更等により、投資対象国の有価証券への投資に悪影響が及び可能性があります。

デリバティブ取引のリスク

先物・スワップ取引等のデリバティブ取引を用いた投資手法は運用の効率を高めるため、または証券価格、市場金利、為替等の変動による当ファンドおよびマザーファンドへの影響を低減するために用いられますが、デリバティブ取引は必ず用いられるわけではなく、また用いられたとしても本来の目的を達成できる保証はありません。

パッシブ運用のリスク

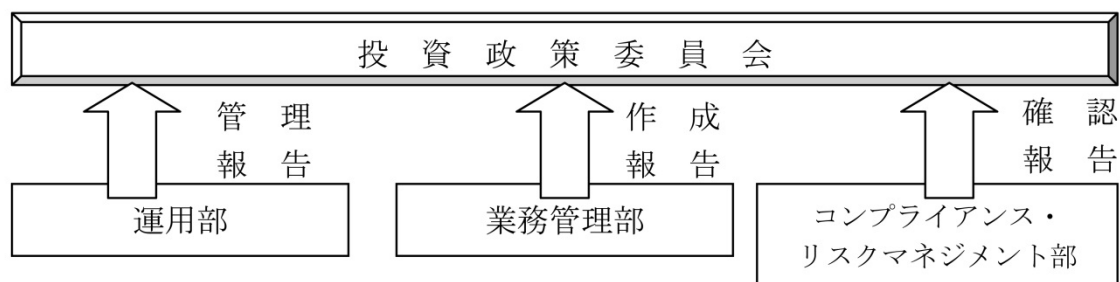
当ファンドおよび主要投資対象の外国投資信託はパッシブ運用を採用しています。パッシブ運用とは、ベンチマーク（参考指数）とするインデックスと連動する投資成果を目指す運用手法であり、ファンド・マネジャーが経済情勢、市場分析等に基づき個別銘柄の売買を行うことによりインデックスを上回る投資成果を目指すアクティブ運用とは異なります。

当ファンドは、投資成果をインデックスにできるだけ連動させるため、主要投資対象の外国投資信託の組入比率は原則として高位を維持します。ただし、インデックス採用銘柄の変更や資本異動等により主要投資対象の外国投資信託においてポートフォリオの調整が行われる場合等、個別銘柄の売買等にあたりマーケット・インパクトを受ける可能性があるため、主要投資対象の外国投資信託の基準価額の変動率がインデックスの変動率に一致せず、当ファンドの投資成果がインデックスの投資成果に連動しない場合があります。

(2) その他の留意点

当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリング・オフ）の適用はありません。

(3) リスク管理体制



運用部に属するポートフォリオ・マネジャーは信託約款に定める運用方針に加え、内部ガイドラインを作成し、徹底したリスク管理と厳格なポートフォリオ管理を行います。

業務管理部の運用評価グループは、毎月パフォーマンス分析レポートを作成し、月次収益率と対ベンチマーク超過リターンの算出と要因分析を行います。

コンプライアンス・リスクマネジメント部では、全ファンドにおける運用ガイドライン遵守状況を運用部から離れた立場で確認しております。

投資政策委員会において投資行動やパフォーマンスに関する運用の報告内容を確認するとともに、毎月末の運用ガイドライン遵守状況等の確認をします。

上記リスクに対する管理体制は平成26年9月30日現在のものであり、今後変更となる場合があります。

4 【手数料等及び税金】

(1) 【申込手数料】

お申込み手数料は、販売会社がそれぞれ別に定める手数料率を取得申込日の翌営業日の基準価額に乗じて得た額とします。お申込み手数料には消費税および地方消費税に相当する金額（以下「消費税等相当額」といいます。）がかかります。

販売会社によっては、償還乗換えの優遇措置等の適用が受けられる場合があります。詳しくは、販売会社にお問合せ下さい。

「償還乗換え」とは、取得申込日の属する月の前3ヵ月以内に償還となった証券投資信託の償還金（信託期間を延長した単位型証券投資信託および延長前の信託終了日以降、収益分配金の再投資以外の追加信託を行わない追加型証券

投資信託にあっては、延長前の信託終了日以降でかつ取得申込日の属する月の前3ヵ月以内における受益権の買取請求による売却代金および一部解約金を含みます。）をもって、その支払いを行った販売会社で当ファンドをお申込みいただく場合をいいます。なお、償還乗換えの際に償還金等の支払いを受けたことを証する書類を提示いただくことがあります。

「自動けいぞく投資コース」を選択した受益者が収益分配金を再投資する場合の申込手数料は、無手数料とします。

（２）【換金（解約）手数料】

換金（解約）手数料はありません。

（３）【信託報酬等】

当ファンドから支払われる信託報酬は、以下の支払先が行う当ファンドに関する業務の対価として、当ファンドの信託財産の計算期間を通じて毎日、以下の支払先に対してそれぞれ以下のとおり支払われます。

| 支払先 | 報酬額 |
|------|-----------------------------------|
| 委託会社 | 信託財産の純資産総額の年率0.2160% (税抜0.20%)相当額 |
| 販売会社 | 信託財産の純資産総額の年率0.3240% (税抜0.30%)相当額 |
| 受託会社 | 信託財産の純資産総額の年率0.0324% (税抜0.03%)相当額 |
| 合計 | 信託財産の純資産総額の年率0.5724% (税抜0.53%)相当額 |

（注）外国投資信託「SPDRバークレイズ・ハイ・イールド債券ETF」受益証券において、別途、運用報酬等として純資産総額に対し年率0.40%を乗じて得た額が控除され、実質的な信託報酬は合計で年率0.9724%程度となります。なお、この運用報酬等は、将来変更される可能性があります。

上記の信託報酬は、毎計算期末（ただし、当日が休業日の場合は翌営業日とします。）または信託終了のときに信託財産中から支弁するものとし、委託会社と受託会社との間の配分は別に定めません。

上記の信託報酬に係る消費税等に相当する金額を、信託報酬支弁のときに信託財産中から支弁します。

（４）【その他の手数料等】

信託財産に関する租税、信託財産の財務諸表の監査に要する費用（消費税等相当額を含みます。）等の信託事務の処理に要する諸費用および受託会社の立替えた立替金の利息（以下「諸経費」といいます。）は、受益者の負担とし、信託財産中から支弁します（信託約款第37条）。

信託財産で有価証券の売買を行う際に発生する売買委託手数料、当該売買委託手数料に係る消費税等相当額、信託財産に属する資産を外国で保管する場合の費用は、信託財産中より支弁します。

上記のほか、信託約款の規定に基づく運用指図等により生じた費用をご負担頂く場合があります。上記費用の合計額は、財務諸表の監査費用を除き、運用状況等により変動するものであり、事前に金額もしくはその上限額またはこれらの計算方法を示すことはできません。

（５）【課税上の取扱い】

課税上は株式投資信託として取り扱われ、日本の居住者（法人を含みます。）である受益者については、以下のような取扱いとなります。なお、税制が改正された場合には、その内容が変更されることがあります。

個人、法人別の課税について

個人の投資家に対する課税

< 収益分配金に対する課税 >

分配金のうち課税扱いとなる普通分配金については、20.315%（所得税15.315%および地方税5%）の税率による源泉徴収が行われます。なお、確定申告により、申告分離課税もしくは総合課税（配当控除は適用されません。）のいずれかを選択することもできます。

< 換金（解約）時および償還時の差益（譲渡益）に対する課税 >

換金（解約）時および償還時の差益（譲渡益）については、申告分離課税により20.315%（所得税15.315%および地方税5%）の税率が適用され、源泉徴収口座を選択した場合は20.315%の税率により源泉徴収が行われます。

[譲渡損失と収益分配金との間の損益通算について]

換金（解約）時および償還時の差損（譲渡損失）については、確定申告等により上場株式等の配当所得（申告分離課税を選択した収益分配金・配当金に限ります。）との通算が可能です。

税法が改正された場合等には、税率等が変更される場合があります。

少額投資非課税制度「愛称：NISA（ニーサ）」をご利用の場合

少額投資非課税制度「NISA（ニーサ）」は、平成26年1月1日以降の非課税制度です。NISAをご利用の場合、毎年、年間100万円の範囲で新たに購入した公募株式投資信託などから生じる配当所得及び譲渡所得が5年間非課税となります。ご利用になれるのは、満20歳以上の方で、販売会社で非課税口座を開設するなど、一定の条件に該当する方が対象となります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。

法人の場合は上記とは異なります。

税金の取扱いの詳細については、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

法人の投資家に対する課税

分配金のうち課税扱いとなる普通分配金ならびに換金（解約）時および償還時の個別元本超過額については、15.315%（所得税15.315%）の税率で源泉徴収が行われます。なお、地方税の源泉徴収はありません。

源泉税は所有期間に応じて法人税額から控除

なお、益金不算入制度は適用されません。

税金の取扱いの詳細については税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

5【運用状況】

(1)【投資状況】

(平成26年9月30日現在)

| 種類 | 国/地域名 | 時価合計(円) | 投資比率(%) |
|----------------------|-------|-------------|---------|
| 投資信託受益証券 | アメリカ | 480,660,959 | 99.56 |
| コール・ローン、その他資産(負債控除後) | | 2,121,748 | 0.44 |
| 純資産総額 | | 482,782,707 | 100.00 |

(注) 投資比率は、純資産総額に対する当該資産の時価合計の比率です。

(2)【投資資産】

【投資有価証券の主要銘柄】

(平成26年9月30日現在)

| 順位 | 国/地域名 | 種類 | 銘柄名 | 業種 | 数量(口) | 簿価単価(円) | 簿価金額(円) | 評価単価(円) | 評価金額(円) | 投資比率(%) |
|---------|-------|----------|-------------------------|----|---------|----------|-------------|----------|-------------|---------|
| 1 | アメリカ | 投資信託受益証券 | SPDRパーケレイズ・ハイ・イールド債券ETF | | 109,845 | 4,458.47 | 489,741,038 | 4,375.81 | 480,660,959 | 99.56 |
| 投資比率：合計 | | | | | | | | | | 99.56 |

(注1) 投資有価証券は1銘柄です。

(注2) 投資比率は、純資産総額に対する当該銘柄の評価金額の比率です。

(注3) 平成26年9月30日のわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算しています。

種類別及び業種別投資比率

| 国内/外国 | 種類 | 業種 | 投資比率(%) |
|-------|----------|----|---------|
| 外国 | 投資信託受益証券 | | 99.56 |
| 合計 | | | 99.56 |

(注1) 投資比率は、純資産総額に対する当該種類の評価金額の比率です。

（注2）平成26年9月30日のわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算しています。

【投資不動産物件】

該当する事項はありません。

【その他投資資産の主要なもの】

該当する事項はありません。

（3）【運用実績】

【純資産の推移】

平成26年9月30日及び同日前1年以内における各月末ならびに下記計算期間末の純資産の推移は次の通りです。

| 特定期間 | 計算期間・月末 | 純資産総額（円） | | 1口当たりの純資産額（円） | |
|--------|------------------------------|----------|-------------|---------------|--------|
| 第1特定期間 | 自平成23年 9月15日 至平成24年 2月20日 | 分配付： | 39,581,432 | 分配付： | 1.0799 |
| | | 分配落： | 39,361,518 | 分配落： | 1.0739 |
| 第2特定期間 | 自平成24年 2月21日 至平成24年 8月20日 | 分配付： | 83,067,890 | 分配付： | 1.0784 |
| | | 分配落： | 82,605,726 | 分配落： | 1.0724 |
| 第3特定期間 | 自平成24年 8月21日 至平成25年 2月20日 | 分配付： | 184,101,900 | 分配付： | 1.2935 |
| | | 分配落： | 183,247,949 | 分配落： | 1.2875 |
| 第4特定期間 | 自平成25年 2月21日 至平成25年 8月20日 | 分配付： | 344,580,175 | 分配付： | 1.2906 |
| | | 分配落： | 342,978,277 | 分配落： | 1.2846 |
| 第5特定期間 | 自平成25年 8月21日 至平成26年 2月20日 | 分配付： | 426,952,803 | 分配付： | 1.4105 |
| | | 分配落： | 425,136,624 | 分配落： | 1.4045 |
| 第6特定期間 | 自平成26年 2月21日 至平成26年 8月20日 | 分配付： | 494,669,563 | 分配付： | 1.4292 |
| | | 分配落： | 492,939,020 | 分配落： | 1.4242 |
| | 平成25年 9月末日 | | 376,828,937 | | 1.3088 |
| | 10月末日 | | 368,604,836 | | 1.3422 |
| | 11月末日 | | 366,876,200 | | 1.3951 |
| | 12月末日 | | 393,764,091 | | 1.4346 |
| | 平成26年 1月末日 | | 415,277,854 | | 1.4079 |
| | 2月末日 | | 450,388,122 | | 1.4158 |
| | 3月末日 | | 454,101,785 | | 1.4231 |
| | 4月末日 | | 470,238,812 | | 1.4196 |
| | 5月末日 | | 487,216,666 | | 1.4121 |
| | 6月末日 | | 511,219,260 | | 1.4152 |
| | 7月末日 | | 511,805,969 | | 1.4087 |
| | 8月末日 | | 486,280,955 | | 1.4354 |
| | 9月末日 | | 482,782,707 | | 1.4639 |

【分配の推移】

| 特定期間 | 計算期間 | 一口当たりの分配金 |
|--------|------------------------------|-----------|
| 第1特定期間 | 自平成23年 9月15日 至平成24年 2月20日 | 0.0240円 |
| 第2特定期間 | 自平成24年 2月21日 至平成24年 8月20日 | 0.0360円 |
| 第3特定期間 | 自平成24年 8月21日 至平成25年 2月20日 | 0.0360円 |

| | | |
|--------|------------------------------|---------|
| 第4特定期間 | 自平成25年 2月21日 至平成25年 8月20日 | 0.0360円 |
| 第5特定期間 | 自平成25年 8月21日 至平成26年 2月20日 | 0.0360円 |
| 第6特定期間 | 自平成26年 2月21日 至平成26年 8月20日 | 0.0340円 |

（注）各特定期間中の分配金の合計です。

【収益率の推移】

| 特定期間 | 計算期間 | 収益率 |
|--------|------------------------------|-------|
| 第1特定期間 | 自平成23年 9月15日 至平成24年 2月20日 | 9.9% |
| 第2特定期間 | 自平成24年 2月21日 至平成24年 8月20日 | 3.3% |
| 第3特定期間 | 自平成24年 8月21日 至平成25年 2月20日 | 23.8% |
| 第4特定期間 | 自平成25年 2月21日 至平成25年 8月20日 | 2.5% |
| 第5特定期間 | 自平成25年 8月21日 至平成26年 2月20日 | 12.2% |
| 第6特定期間 | 自平成26年 2月21日 至平成26年 8月20日 | 3.9% |

（注）各特定期間の収益率は、期間中の分配金を加算した特定期間末の基準価額から前特定期間末の分配落基準価額（設定時は当初元本額）を控除した額を、前特定期間末の分配落基準価額（同）で除して得た数に100を乗じて得た数です。

（4）【設定及び解約の実績】

| 特定期間 | 計算期間 | 設定口数（口） | 解約口数（口） | 発行済口数（口） |
|--------|------------------------------|-------------|-------------|-------------|
| 第1特定期間 | 自平成23年 9月15日 至平成24年 2月20日 | 45,970,288 | 9,317,863 | 36,652,425 |
| 第2特定期間 | 自平成24年 2月21日 至平成24年 8月20日 | 88,378,313 | 48,003,271 | 77,027,467 |
| 第3特定期間 | 自平成24年 8月21日 至平成25年 2月20日 | 120,174,204 | 54,876,451 | 142,325,220 |
| 第4特定期間 | 自平成25年 2月21日 至平成25年 8月20日 | 281,624,085 | 156,966,196 | 266,983,109 |
| 第5特定期間 | 自平成25年 8月21日 至平成26年 2月20日 | 191,428,256 | 155,714,713 | 302,696,652 |
| 第6特定期間 | 自平成26年 2月21日 至平成26年 8月20日 | 173,805,965 | 130,393,924 | 346,108,693 |

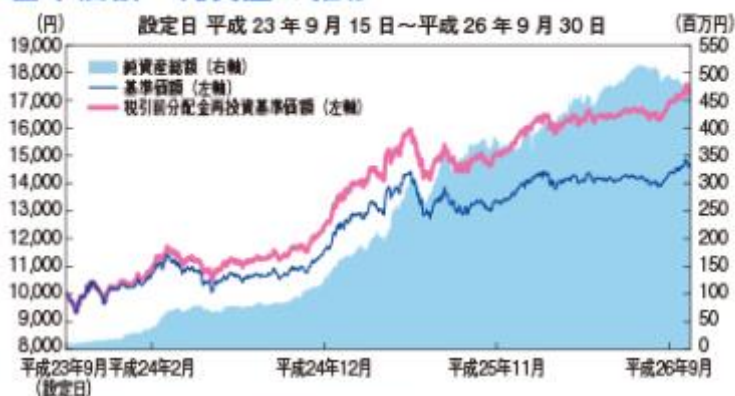
（注1）日本国外における設定、解約はありません。

（注2）第1特定期間の設定口数は、当初募集期間の設定口数を含みます。

（参考情報）運用実績

（平成26年9月30日）

基準価額・純資産の推移



※基準価額の計算において信託報酬は控除しています。

＜基準価額・純資産総額＞

| | |
|-------|---------|
| 基準価額 | 14,639円 |
| 純資産総額 | 482百万円 |

分配の推移

| 決算期 | 分配金 |
|-------------------|--------|
| 第30期 (平成26年4月21日) | 60円 |
| 第31期 (平成26年5月20日) | 60円 |
| 第32期 (平成26年6月20日) | 60円 |
| 第33期 (平成26年7月22日) | 50円 |
| 第34期 (平成26年8月20日) | 50円 |
| 第35期 (平成26年9月22日) | 50円 |
| 直近1年間累計 | 690円 |
| 設定来累計 | 2,070円 |

※分配金は1万口当たり、税引前です。

主要な資産の状況 (外国投資信託「SPDRバークレイズ・ハイ・イールド債券ETF」受益証券の資産の状況)

上位10銘柄*

| 銘柄名 | 比率 | 残存年数 |
|--------------------------|---------|-----------|
| FIRST DATA CORPORATION | 12.625% | '21/01/15 |
| SPRINT CORP | 7.875% | '23/09/15 |
| SPRINT COMMUNICATIONS | 9.000% | '18/11/15 |
| WIND ACQUISITION FIN SA | 7.375% | '21/04/23 |
| NUMERICABLE GROUP SA | 6.000% | '22/05/15 |
| CHRYSLER GP/CG CO-ISSUER | 8.250% | '21/06/15 |
| REYNOLDS GRP ISS/REYNOLD | 5.750% | '20/10/15 |
| HCA INC | 6.500% | '20/02/15 |
| TENET HEALTHCARE CORP | 8.125% | '22/04/01 |
| ALTICE SA | 7.750% | '22/05/15 |

※比率は外国投資信託の純資産総額対比

セクター別構成比*

| セクター | 外国投資信託 | ベンチマーク | 差 |
|------|--------|--------|--------|
| 産業 | 89.13% | 89.46% | -0.32% |
| 金融 | 7.38% | 7.49% | -0.11% |
| 公益 | 2.93% | 3.05% | -0.12% |
| その他 | 0.56% | 0.00% | 0.56% |

残存年数別構成比*

| 残存年数 | 外国投資信託 | ベンチマーク | 差 |
|-------|--------|--------|--------|
| 1年未満 | 0.56% | 0.00% | 0.56% |
| 1～3年 | 2.30% | 2.66% | -0.36% |
| 3～7年 | 59.21% | 59.09% | 0.13% |
| 7～10年 | 35.62% | 36.65% | -1.03% |
| 10年以上 | 2.31% | 1.61% | 0.70% |

格付別構成比*

| 格付 | 外国投資信託 | ベンチマーク | 差 |
|--------|--------|--------|--------|
| BBB格以上 | 0.56% | 0.00% | 0.56% |
| BB格 | 37.42% | 38.48% | -1.06% |
| B格 | 43.39% | 44.13% | -0.74% |
| CCC格以下 | 18.64% | 17.39% | 1.25% |

※外国投資信託の比率は外国投資信託の純資産総額対比

外国投資信託の特性値

| | 外国投資信託 | ベンチマーク |
|-----------|--------|--------|
| 修正デュレーション | 4.49 | 4.44 |
| 最終利回り | 6.43% | 6.40% |

年間収益率の推移 (暦年ベース)



※平成23年のファンドとベンチマークの収益率は設定時から12月末まで、平成26年は9月末までで算出しております。
 ※年間収益率の推移は、税引前分配金を再投資したものととして算出しています。

- 上記の運用実績は、過去の実績であり将来の成果を保証するものではありません。
- 上記のベンチマークの情報は参考情報です。
- 最新の運用実績は委託会社のホームページ、または販売会社でご確認いただけます。

第2【管理及び運営】

1【申込（販売）手続等】

- 1) お申込日が原則として米国の取引所または銀行の休業日に当たる場合を除き、営業時間内においていつでも、お申込日の翌営業日の基準価額にて申込取扱場所においてお申込みいただくことができます。なお、この場合のお申込みの受付は、販売会社の毎営業日の午後3時までとし、この時間を過ぎた場合は、翌営業日の取扱いとさせていただきます。

- 2) ファンドの受益権の取得申込者は、販売会社に所定の方法で取引口座を開設のうえ、取得申込みを行います。
- 3) お申込単位は、販売会社が定める単位にて受け付けます。
- 4) 取引所における取引の停止、外国為替取引の停止その他やむを得ない事情（投資対象国における非常事態（金融危機、デフォルト、重大な政策変更、クーデター等政変、テロリズム、戦争、天災地変等）による市場の閉鎖または流動性の極端な減少ならびに資金の受渡しに関する障害等）があるときは、委託会社の判断により、受益権の取得申込の受け付けを中止することおよび既に受け付けた受益権の取得申込の受け付けを取り消すことができます（信託約款第11条第7項）。
- 5) 償還乗換えでこのファンドをお申込みになる場合には、当該償還金額の範囲内（単位型証券投資信託にあっては、当該償還金額と元本のいずれか大きい額とします。）で取得する口数に係る申込手数料を無料とします。

2 【換金（解約）手続等】

- 1) 委託会社は、受益権の買戻しを行いません。ただし、受益者（販売会社を含みます。以下同じ。）は、自己に帰属する受益権につき、委託会社に対し、委託会社の承諾を得て各販売会社が定める解約単位をもって一部解約の実行を請求することができます（信託約款第44条第1項）。なお、一部解約の請求の受け付けは、営業日の午後3時までとし、当該受付時間を過ぎた場合は翌営業日の取扱いとさせていただきます。
- 2) 受益者が、上記1)の一部解約の実行の請求をするときは、販売会社に対し、振替受益権をもって行うものとします（信託約款第44条第2項）。
- 3) 上記1)の規定にかかわらず、解約請求日が米国の取引所または銀行の休業日の場合は、原則として受益権の一部解約の実行を受け付けませんものとします。（信託約款第44条第1項）
- 4) 委託会社は、一部解約の実行の請求を受け付けた場合には、この信託契約の一部を解約します。なお、上記1)の一部解約の実行の請求を行う受益者は、その口座が開設されている振替機関等に対して当該受益者の請求に係るこの信託契約の一部解約を委託会社が行うのと引き換えに、当該一部解約に係る受益権の口数と同口数の抹消の申請を行うものとし、社振法の規定にしたがい当該振替機関等の口座において当該口数の減少の記載または記録が行われます（信託約款第44条第3項）。一部解約金は、受益者の請求を受け付けた日から起算して、原則として5営業日目から当該受益者に支払います（信託約款第41条第4項）。
- 5) 上記4)の一部解約の価額は、解約請求日の翌営業日の基準価額とします（信託約款第44条第4項）。
- 6) 委託会社は、取引所における取引の停止、外国為替取引の停止その他やむを得ない事情（投資対象国における非常事態（金融危機、デフォルト、重大な政策変更、クーデター等政変、テロリズム、戦争、天災地変等）による市場の閉鎖または流動性の極端な減少ならびに資金の受渡しに関する障害等）があるときは、委託会社の判断により、上記1)による一部解約の実行の請求の受け付けを中止することおよび既に受け付けた上記1)による一部解約の実行の請求を取り消すことができます（信託約款第44条第5項）。
- 7) 上記6)により一部解約の実行の請求の受け付けが中止された場合には、受益者は当該受付中止以前に行った当日の一部解約の実行の請求を撤回できます。ただし、受益者がその一部解約の実行の請求を撤回しない場合には、当該受益権の一部解約の価額は、当該受付中止を解除した後の最初の基準価額の計算日に一部解約の実行の請求を受け付けたものとして上記5)の規定に準じて計算された価額とします（信託約款第44条第6項）。
- 8) 販売会社により、買取請求の取扱いを行う場合がありますが、詳しくは販売会社までお問合せ下さい。

3 【資産管理等の概要】

(1) 【資産の評価】

1) 基準価額の算出方法

基準価額とは、算出日において、信託財産に属する資産（受入担保金代用有価証券及び信託約款第24条に定める借入公社債を除きます。）を法令および一般社団法人投資信託協会規則にしたがって時価評価して得た信託財産の資産総額から負債総額を控除した金額（「純資産総額」）を、算出日における受益権口数で除して得た額をいいます。なお、ファンドにおいては1万口当りの価額で表示されます。

ファンドの主な投資対象の評価方法は以下の通りです。

| 対象 | 評価方法 |
|----|------|
|----|------|

| | |
|--------|--|
| 投資信託証券 | 原則として、基準価額算出日の基準価額で評価します。 |
| 公社債等 | 原則として、基準価額計算日における以下のいずれかの価額で評価します。 日本証券業協会発表の店頭売買参考統計値(平均値) 証券会社、銀行等の提示する価額 価格情報会社の提供する価額 |
| 外貨建資産 | 原則として、基準価額計算日の対顧客相場の仲値で円換算を行います。 |

外国で取引されているものについては、原則として、基準価額計算日の前日とします。

2) 基準価額の算出頻度

基準価額は原則として委託会社の営業日において日々算出されます。

3) 基準価額の公表

基準価額は、販売会社でご確認いただけます。

また、原則として、計算日の翌日付の日本経済新聞朝刊に掲載されます。

なお、下記においてもご照会いただけます。

ステート・ストリート・グローバル・アドバイザーズ株式会社

電話番号 03 - 4530 - 7333

(受付時間：原則として委託会社の毎営業日午前9時～午後5時)

ホームページアドレス：<http://www.ssga.co.jp/public/nav.htm>

(2) 【保管】

該当事項はありません。

(3) 【信託期間】

当ファンドの信託期間は原則として無期限ですが、下記(5) 1)の理由により信託を終了させる場合があります。

(4) 【計算期間】

1) この信託の計算期間は、毎月21日から翌月20日までとすることを原則とします(信託約款第35条第1項)。

2) 上記1)の規定にかかわらず、上記1)の原則により各計算期間終了日に該当する日(以下「該当日」といいます。)が休業日のとき、各計算期間終了日は、該当日の翌営業日とし、その翌日より次の計算期間が開始されるものとします。ただし、最終計算期間の終了日は、下記(5) 1)に定める信託期間の終了日とします(信託約款第35条第2項)。

(5) 【その他】

1) 信託の終了

・ 信託契約の解約(信託約款第45条第1項から第3項)

(イ) 委託会社は、信託期間中において、信託契約の一部を解約することによりこの信託の受益権の口数が10億口を下回ることとなった場合または下回ることが明らかとなった場合、もしくはこの信託契約を解約することが受益者のため有利であると認めるとき、またはやむを得ない事情が発生したときは、受託会社と合意のうえ、この信託契約を解約し、信託を終了させることができます。この場合において、委託会社は、あらかじめ、解約しようとする旨を監督官庁に届け出ます。

(ロ) 委託会社は、この信託が主要投資対象とする外国投資信託受益証券が存続しないこととなる場合や組入ができなくなった場合には、この信託契約を解約し、信託を終了させるものとします。この場合において、委託会社は、あらかじめ、解約しようとする旨を監督官庁に届け出ます。

(ハ) 委託会社は、上記(イ)の事項について、書面による決議(以下「書面決議」といいます。)を行います。この場合において、あらかじめ、書面決議の日ならびに信託契約の解約の理由などの事項を定め、当該決議の日の2週間前までに、この信託契約に係る知れている受益者に対し、書面をもってこれらの事項を記載した書面決議の通知を發します。

・ 信託契約に関する監督官庁の命令(信託約款第46条)

委託会社は、監督官庁よりこの信託契約の解約の命令を受けたときは、その命令にしたがい、信託契約を解約し信託を終了させます。

・ 委託会社の登録取消等に伴う取扱い(信託約款第47条)

- (イ) 委託会社が監督官庁より登録の取消を受けたとき、解散したときまたは業務を廃止したときは、委託会社は、この信託契約を解約し、信託を終了させます。
- (ロ) 上記イ)の規定にかかわらず、監督官庁がこの信託契約に関する委託会社の業務を他の投資信託委託会社に引き継ぐことを命じたときは、この信託は、下記 3)の書面決議が否決となる場合を除き、当該投資信託委託会社と受託会社との間において存続します)
- ・ 委託会社の事業の譲渡および承継に伴う取扱い(信託約款第48条)
- (イ) 委託会社は、事業の全部または一部を譲渡することがあり、これに伴い、この信託契約に関する事業を譲渡することがあります。
- (ロ) 委託会社は、分割により事業の全部または一部を承継させることがあり、これに伴い、この信託契約に関する事業を承継させることがあります。
- ・ 受託会社の辞任および解任に伴う取扱い(信託約款第49条)
- (イ) 受託会社は、委託会社の承諾を受けてその任務を辞任することができます。受託会社はその任務に違反して信託財産に著しい損害を与えたことその他重要な事由があるときは、委託会社または受益者は、裁判所に受託会社の解任を申立てることができます。受託会社が辞任した場合、または裁判所が受託会社を解任した場合、委託会社は、下記 3)の規定にしたがい、新受託会社を選任します。なお、受益者は、上記によって行う場合を除き、受託会社を解任することはできないものとします。
- (ロ) 委託会社が新受託会社を選任できないときは、委託会社はこの信託契約を解約し、信託を終了させます。
- 2) 書面決議
- ・ 上記1) i)の書面決議において、受益者（委託会社およびこの信託の信託財産にこの信託の受益権が属するときの当該受益権に係る受益者としての受託会社を除きます。以下本項において同じ。）は受益権の口数に応じて、議決権を有し、これを行行使することができます。なお、知っている受益者が議決権を行行使しないときは、当該知っている受益者は書面決議について賛成するものとみなします(信託約款第45条第4項)。
- ・ 上記1) i) (ハ)の書面決議は議決権を行行使することができる受益者の半数以上であって、当該受益者の議決権の3分の2以上にあたる多数をもって行います(信託約款第45条第5項)。
- ・ 1) (ハ)および上記 から の規定は、委託会社が信託契約の解約について提案をした場合において、当該提案につき、この信託契約に係るすべての受益者が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたときおよび上記1) i) (ロ)の規定に基づいてこの信託契約を解約する場合には適用しません。また、信託財産の状態に照らし、真にやむを得ない事情が生じている場合であって、1) (ハ)および上記 から に規定するこの信託契約の解約の手続を行うことが困難な場合には適用しません(信託約款第45条第6項)。
- 3) 信託約款の変更等
- ・ 委託会社は、受益者の利益のため必要と認めるとき、またはやむを得ない事情が発生したときは、受託会社と合意のうえ、この信託約款を変更することまたはこの信託と他の信託との併合（投資信託及び投資法人に関する法律第16条第2号に規定する「委託会社指図型投資信託の併合」をいいます。以下同じ。）を行うことができるものとし、あらかじめ、変更または併合しようとする旨およびその内容を監督官庁に届け出ます(信託約款第50条第1項)。
- ・ 委託会社は、上記 の事項（上記 の変更事項にあっては、その内容が重大なものに該当する場合に限ります。以下、併合と合わせて「重大な約款の変更等」といいます。）について、書面決議を行います。この場合において、あらかじめ、書面決議の日ならびに重大な約款の変更等の内容およびその理由などの事項を定め、当該決議の日の2週間前までに、この信託約款に係る知っている受益者に対し、書面をもってこれらの事項を記載した書面決議の通知を發します(信託約款第50条第2項)。
- 4) 反対者の買取請求権
- 上記 1)に規定する信託契約の解約または上記3)に規定する重大な約款の変更等を行う場合には、書面決議において当該解約または重大な約款の変更等に反対した受益者は、受託会社に対し、自己に帰属する受益権を、信託財産をもって買取すべき旨を請求することができます。この買取請求権の内容および買取請求の手続に関する事項は、上記1) (ハ)または上記3) に規定する書面に付記します(信託約款第51条)。
- 5) 運用報告書の交付
- 毎特定期間末（毎年2月20日および8月20日。ただし、該当日が休日の場合は翌営業日。）および償還時に、期中の運用経過等を記載した運用報告書（平成26年12月以降については、運用報告書の記載

事項のうち重要なものを記載した交付運用報告書）を作成し、販売会社を通じて知っている受益者に対して交付します。

6) 公告

委託会社が受益者に対してする公告は、日本経済新聞に掲載します(信託約款第53条)。

7) 募集・売出し契約の変更

委託会社と販売会社との間の募集・売出し契約は、当事者の別段の意思表示のない限り、1年ごとに自動的に更新されます。募集・売出し契約は、当事者間の合意により変更することができます。その終了または変更は、必要に応じて運用報告書に記載する等の方法により受益者に対し通知を行う手配をしますが、必ずしもただちに受益者全員にこれを知らせるものではありません。

4 【受益者の権利等】

受益権

当ファンドの受益者は、委託会社の指定する受益権取得申込者とし、信託約款第6条の規定により分割された受益権は、その取得申込口数に応じて取得申込者に帰属します(信託約款第5条)。当ファンドの受益権は、信託の日時を異にすることにより差異を生ずることはありません(信託約款第8条)。

収益分配金、償還金および一部解約金の支払い

- 1) 収益分配金は、毎計算期間終了日後1ヶ月以内の委託会社の指定する日から、毎計算期間の末日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者（当該収益分配金に係る計算期間の末日以前において一部解約が行われた受益権に係る受益者を除きます。また、当該収益分配金に係る計算期間の末日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため委託会社の指定する販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者とし、）に支払います(信託約款第41条第1項)。
- 2) 上記1)の規定にかかわらず、委託会社の指定する販売会社と受益権の取得申込者との間に結ばれた別に定める自動けいぞく投資約款にしたがった契約に基づいて収益分配金を再投資する受益者に対しては、受託会社が委託会社の指定する預金口座等に払い込むことにより、原則として、毎計算期間終了日の翌営業日に収益分配金が委託会社の指定する販売会社に交付されます。この場合、委託会社の指定する販売会社は、受益者に対し遅滞なく収益分配金の再投資に係る受益権の売付けを行います。ただし、上記2 換金（解約）手続等 1)により信託の一部解約が行われた場合に、当該受益権に帰属する収益分配金があるときは、上記1)に準じて受益者に支払います。当該売付けにより増加した受益権は、信託約款第9条第3項の規定にしたがい、振替口座簿に記載または記録されます(信託約款第41条第2項)。
- 3) 償還金は、信託終了日後1ヶ月以内の委託会社の指定する日から、信託終了日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者（信託終了日以前において一部解約が行われた受益権に係る受益者を除きます。また、当該信託終了日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため委託会社の指定する販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者とし、）に支払います。なお、当該受益者は、その口座が開設されている振替機関等に対して委託会社がこの信託の償還をするのと引き換えに、当該償還に係る受益権の口数と同口数の抹消の申請を行うものとし、社振法の規定にしたがい当該振替機関等の口座において当該口数の減少の記載または記録が行われます（信託約款第41条第3項）。
- 4) 一部解約金は、上記2 換金（解約）手続等 1)の受益者の請求を受け付けた日から起算して、原則として5営業日目から当該受益者に支払います(信託約款第41条第4項)。
- 5) 上記1)、3)、4)に規定する収益分配金、償還金および一部解約金の支払いは、委託会社の指定する販売会社の営業所等において行うものとし、(信託約款第41条第5項)。
- 6) 収益分配金、償還金および一部解約金に係る収益調整金は、原則として、各受益者毎の信託時の受益権の価額等に応じて計算されるものとし、(信託約款第41条第6項)。
- 7) 上記6)に規定する「収益調整金」は、所得税法施行令第27条の規定によるものとし、各受益者毎の信託時の受益権の価額と元本との差額をいい、原則として、追加信託のつど当該口数により加重平均され、収益分配のつど調整されるものとし、(信託約款第41条第7項)。
- 8) 受益者が、収益分配金については上記1)に規定する支払開始日から5年間その支払いを請求しないとき、ならびに信託終了による償還金について上記3)に規定する支払開始日から10年間その支払いを請求しないときは、その権利を失い、受託会社から交付を受けた金銭は、委託会社に帰属します(信託約款第42条)。

議決権、受益者集会に関する権利

受益者には、議決権、受益者集会に関する権利はありません。

反対した受益者の買取請求権

帳簿閲覧謄写請求権

第3【ファンドの経理状況】

(1) 当ファンドの財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）並びに同規則第2条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）に基づいて作成しております。

なお、財務諸表に記載している金額は、円単位で表示しております。

(2) 当ファンドの計算期間は6ヶ月未満であるため、財務諸表は6ヶ月毎に作成しております。

(3) 当ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、当特定期間(平成26年2月21日から平成26年8月20日まで)の財務諸表について、あらた監査法人により監査を受けております。

1【財務諸表】

ステート・ストリートUSハイ・イールド債券オープン

(1)【貸借対照表】

(単位：円)

| | 前期 (平成26年 2月20日現在) | 当期 (平成26年 8月20日現在) |
|-----------------|-----------------------|-----------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 預金 | 4,405,719 | 4,152,780 |
| コール・ローン | 3,342,163 | 984,170 |
| 投資信託受益証券 | 423,191,623 | 490,667,872 |
| 親投資信託受益証券 | 50,125 | 50,155 |
| 派生商品評価勘定 | 735 | - |
| 未収入金 | - | 6,362,555 |
| 未収利息 | 2 | - |
| 流動資産合計 | 430,990,367 | 502,217,532 |
| 資産合計 | | |
| | 430,990,367 | 502,217,532 |
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 派生商品評価勘定 | - | 41,326 |
| 未払金 | 2,931,820 | 2,120,744 |
| 未払収益分配金 | 1,816,179 | 1,730,543 |
| 未払解約金 | 905,512 | 5,154,849 |
| 未払受託者報酬 | 11,126 | 12,842 |
| 未払委託者報酬 | 185,408 | 214,054 |
| その他未払費用 | 3,698 | 4,154 |
| 流動負債合計 | 5,853,743 | 9,278,512 |
| 負債合計 | | |
| | 5,853,743 | 9,278,512 |
| 純資産の部 | | |
| 元本等 | | |
| 元本 | 1 302,696,652 | 1 346,108,693 |
| 剰余金 | | |
| 期末剰余金又は期末欠損金() | 122,439,972 | 146,830,327 |
| (分配準備積立金) | 25,556,709 | 18,027,346 |
| 元本等合計 | 425,136,624 | 492,939,020 |
| 純資産合計 | | |
| | 425,136,624 | 492,939,020 |
| 負債純資産合計 | | |
| | 430,990,367 | 502,217,532 |

(2) 【損益及び剰余金計算書】

(単位：円)

| | 前期 | 当期 |
|-------------------------|--------------------------------|--------------------------------|
| | 自 平成25年 8月21日 至 平成26年 2月20日 | 自 平成26年 2月21日 至 平成26年 8月20日 |
| 営業収益 | | |
| 受取配当金 | 11,300,842 | 12,180,577 |
| 受取利息 | 907 | 762 |
| 有価証券売買等損益 | 16,724,453 | 3,107,357 |
| 為替差損益 | 15,368,289 | 3,743,813 |
| 営業収益合計 | 43,394,491 | 19,032,509 |
| 営業費用 | | |
| 受託者報酬 | 60,782 | 76,266 |
| 委託者報酬 | 1,012,986 | 1,271,077 |
| その他費用 | 221,201 | 208,599 |
| 営業費用合計 | 1,294,969 | 1,555,942 |
| 営業利益 | 42,099,522 | 17,476,567 |
| 経常利益 | 42,099,522 | 17,476,567 |
| 当期純利益 | 42,099,522 | 17,476,567 |
| 一部解約に伴う当期純利益金額の分配額 | 2,014,251 | 678,132 |
| 期首剰余金又は期首欠損金 () | 75,995,168 | 122,439,972 |
| 剰余金増加額又は欠損金減少額 | 72,465,579 | 72,293,189 |
| 当期追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額 | 72,465,579 | 72,293,189 |
| 剰余金減少額又は欠損金増加額 | 55,893,020 | 53,133,224 |
| 当期一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額 | 55,893,020 | 53,133,224 |
| 分配金 | 1 10,213,026 | 1 11,568,045 |
| 期末剰余金又は期末欠損金 () | 122,439,972 | 146,830,327 |

(3) 【注記表】

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

| | |
|---------------------------|--|
| 1 有価証券の評価基準及び評価方法 | 投資信託受益証券及び親投資信託受益証券 移動平均法に基づき、時価で評価しております。時価評価にあたっては、投資信託受益証券及び親投資信託受益証券の基準価額に基づいて評価しております。 |
| 2 デリバティブ等の評価基準及び評価方法 | 為替予約取引 個別法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価にあたっては、原則として特定期間末日の対顧客先物売買相場において為替予約の受渡日の仲値が発表されている場合には当該仲値、受渡日の仲値が発表されていない場合には発表されている受渡日に最も近い前後二つの日の仲値をもとに計算しております。 |
| 3 その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項 | 外貨建取引等の処理基準 外貨建取引については、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）第60条に基づき、取引発生時の外国通貨の額をもって記録する方法を採用しております。但し、同第61条に基づき、外国通貨の売却時において、当該外国通貨に加えて、外貨建資産等の外貨基金勘定及び外貨建各損益勘定の前日の外貨建純資産額に対する当該売却外国通貨の割合相当額を当該外国通貨の売却時の外国為替相場等で円換算し、前日の外貨基金勘定に対する円換算した外貨基金勘定の割合相当の邦貨建資産等の外国投資勘定と、円換算した外貨基金勘定を相殺した差額を為替差損益とする計理処理を採用しております。 |

(貸借対照表に関する注記)

| 区 分 | 前期 (平成26年 2月20日現在) | 当期 (平成26年 8月20日現在) |
|-----------------------------------|--|--|
| 1 期首元本額 期中追加設定元本額 期中一部解約元本額 | 266,983,109円 191,428,256円 155,714,713円 | 302,696,652円 173,805,965円 130,393,924円 |
| 2 受益権の総数 | 302,696,652口 | 346,108,693口 |

(損益及び剰余金計算書に関する注記)

| 区分 | 前期 自 平成25年 8月21日 至 平成26年 2月20日 | 当期 自 平成26年 2月21日 至 平成26年 8月20日 |
|----|--------------------------------------|--------------------------------------|
| | | |

1 分配金の計算過程

(平成25年8月21日から平成25年9月20日までの計算期間)

計算期間末における費用控除後の配当等収益(1,651,723円)、収益調整金(95,593,473円)及び分配準備積立金(23,291,658円)より分配対象収益は120,536,854円(1万口当たり4,274円)であり、うち1,692,044円(1万口当たり60円)を分配金額としております。

(平成25年9月21日から平成25年10月21日までの計算期間)

計算期間末における費用控除後の配当等収益(1,458,838円)、収益調整金(97,779,339円)及び分配準備積立金(21,146,208円)より分配対象収益は120,384,385円(1万口当たり4,268円)であり、うち1,692,078円(1万口当たり60円)を分配金額としております。

(平成25年10月22日から平成25年11月20日までの計算期間)

計算期間末における費用控除後の配当等収益(1,473,660円)、収益調整金(93,912,787円)及び分配準備積立金(18,341,258円)より分配対象収益は113,727,705円(1万口当たり4,266円)であり、うち1,599,250円(1万口当たり60円)を分配金額としております。

(平成25年11月21日から平成25年12月20日までの計算期間)

計算期間末における費用控除後の配当等収益(1,433,765円)、費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益(11,273,825円)、収益調整金(104,144,026円)及び分配準備積立金(15,188,467円)より分配対象収益は132,040,083円(1万口当たり4,665円)であり、うち1,698,074円(1万口当たり60円)を分配金額としております。

(平成26年2月21日から平成26年3月20日までの計算期間)

計算期間末における費用控除後の配当等収益(1,709,843円)、収益調整金(130,007,680円)及び分配準備積立金(23,806,407円)より分配対象収益は155,523,930円(1万口当たり4,754円)であり、うち1,962,598円(1万口当たり60円)を分配金額としております。

(平成26年3月21日から平成26年4月21日までの計算期間)

計算期間末における費用控除後の配当等収益(1,766,721円)、収益調整金(130,277,167円)及び分配準備積立金(21,225,922円)より分配対象収益は153,269,810円(1万口当たり4,752円)であり、うち1,935,007円(1万口当たり60円)を分配金額としております。

(平成26年4月22日から平成26年5月20日までの計算期間)

計算期間末における費用控除後の配当等収益(1,696,273円)、収益調整金(137,550,641円)及び分配準備積立金(20,152,010円)より分配対象収益は159,398,924円(1万口当たり4,744円)であり、うち2,015,755円(1万口当たり60円)を分配金額としております。

(平成26年5月21日から平成26年6月20日までの計算期間)

計算期間末における費用控除後の配当等収益(1,926,367円)、費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益(433,496円)、収益調整金(146,983,148円)及び分配準備積立金(19,037,211円)より分配対象収益は168,380,222円(1万口当たり4,754円)であり、うち2,124,947円(1万口当たり60円)を分配金額としております。

| | | |
|--|---|--|
| | <p>(平成25年12月21日から平成26年1月20日までの計算期間)</p> <p>計算期間末における費用控除後の配当等収益(2,592,419円)、費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益(1,829,572円)、収益調整金(108,039,652円)及び分配準備積立金(23,780,271円)より分配対象収益は136,241,914円(1万口当たり4,765円)であり、うち1,715,401円(1万口当たり60円)を分配金額としております。</p> <p>(平成26年1月21日から平成26年2月20日までの計算期間)</p> <p>計算期間末における費用控除後の配当等収益(1,551,836円)、収益調整金(116,663,679円)及び分配準備積立金(25,821,052円)より分配対象収益は144,036,567円(1万口当たり4,758円)であり、うち1,816,179円(1万口当たり60円)を分配金額としております。</p> | <p>(平成26年6月21日から平成26年7月22日までの計算期間)</p> <p>計算期間末における費用控除後の配当等収益(1,756,625円)、収益調整金(150,691,339円)及び分配準備積立金(18,282,859円)より分配対象収益は170,730,823円(1万口当たり4,744円)であり、うち1,799,195円(1万口当たり50円)を分配金額としております。</p> <p>(平成26年7月23日から平成26年8月20日までの計算期間)</p> <p>計算期間末における費用控除後の配当等収益(1,989,212円)、費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益(904,887円)、収益調整金(145,662,066円)及び分配準備積立金(16,863,790円)より分配対象収益は165,419,955円(1万口当たり4,779円)であり、うち1,730,543円(1万口当たり50円)を分配金額としております。</p> |
|--|---|--|

(金融商品に関する注記)

金融商品の状況に関する事項

| | |
|--|--|
| <p>1 金融商品に対する取組方針</p> <p>2 金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク</p> | <p>当ファンドは証券投資信託として、有価証券等の金融商品への投資並びにデリバティブ取引を信託約款に定める「運用の基本方針」に基づき行っております。</p> <p>当ファンドが保有する金融商品の種類は、有価証券、デリバティブ取引、コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務であります。当ファンドが保有する有価証券の詳細は「(4)附属明細表」に記載しております。これらは、価格変動リスク、為替変動リスク等の市場リスク及び信用リスクに晒されております。</p> <p>デリバティブ取引には、外貨建資産の為替変動リスクを回避するために利用している為替予約取引があり、為替変動リスク等の市場リスク及びカウンターパーティーリスク等の信用リスクに晒されております。</p> |
|--|--|

| | |
|------------------|---|
| 3 金融商品に係るリスク管理体制 | 運用部に属するポートフォリオ・マネージャーは約款に定める運用方針に加え、内部ガイドラインを作成し、徹底したリスク管理と厳格なポートフォリオ管理を行っております。また、業務管理部の運用評価グループは、毎月パフォーマンス分析レポートを作成し、月次収益率及び対ベンチマーク超過収益率の算出と要因分析を行っております。さらに、コンプライアンス・リスクマネジメント部では、全ファンドにおける運用ガイドライン遵守状況を運用部から離れた立場で確認しており、投資政策委員会において投資行動やパフォーマンスに関する運用の報告内容を確認するとともに、毎月末の運用ガイドライン遵守状況等の確認をしております。 |
|------------------|---|

金融商品の時価等に関する事項

| 区 分 | 前期 (平成26年 2月20日現在) | 当期 (平成26年 8月20日現在) |
|-----------------------|--|---|
| 1 貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額 | 貸借対照表計上額は時価を計上しているため、その差額はありませ | 同左 |
| 2 金融商品の時価の算定方法 | <p>(1)有価証券及びデリバティブ取引以外の金融商品 有価証券及びデリバティブ取引以外の金融商品については、短期間で決済されることから、時価は帳簿価額と近似しているため、当該金融商品の帳簿価額を時価としております。</p> <p>(2)有価証券 売買目的有価証券 「注記表（重要な会計方針に係る事項に関する注記）」に記載しております。</p> <p>(3)デリバティブ取引 「注記表（デリバティブ取引等関係に関する注記）」に記載しております。</p> | <p>(1)有価証券及びデリバティブ取引以外の金融商品 同左</p> <p>(2)有価証券 売買目的有価証券 同左</p> <p>(3)デリバティブ取引 同左</p> |

| | | |
|---------------------------|--|----|
| 3 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明 | <p>金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。</p> <p>「注記表（デリバティブ取引等関係に関する注記）」におけるデリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。</p> | 同左 |
|---------------------------|--|----|

(有価証券関係に関する注記)

売買目的有価証券

(単位：円)

| 種 類 | 前期 (平成26年 2月20日現在) | 当期 (平成26年 8月20日現在) |
|-----------|------------------------|------------------------|
| | 最終計算期間の損益に 含まれた評価差額 | 最終計算期間の損益に 含まれた評価差額 |
| 投資信託受益証券 | 279,872 | 3,085,961 |
| 親投資信託受益証券 | 5 | 5 |
| 合計 | 279,877 | 3,085,966 |

(デリバティブ取引等関係に関する注記)

取引の時価等に関する事項

通貨関連

(単位：円)

| 区分 | 種 類 | 前期 (平成26年 2月20日現在) | | | |
|-------------------|-------------------------|--------------------|-------|---------|---------|
| | | 契 約 額 等 | | 時 価 | 評 価 損 益 |
| | | | うち1年超 | | |
| 市場取引 以外の取 引 | 為替予約取引 買建 アメリカ・ドル | 442,000 | | 442,735 | 735 |
| | 合 計 | 442,000 | | 442,735 | 735 |

(単位：円)

| 区分 | 種 類 | 当期 (平成26年 8月20日現在) | | | |
|-------------------|-------------------------|--------------------|-------|-----------|---------|
| | | 契 約 額 等 | | 時 価 | 評 価 損 益 |
| | | | うち1年超 | | |
| 市場取引 以外の取 引 | 為替予約取引 売建 アメリカ・ドル | 6,500,000 | | 6,541,326 | 41,326 |
| | 合 計 | 6,500,000 | | 6,541,326 | 41,326 |

(注) 1 . 時価の算定方法

(1) 特定期間末日に対顧客先物売買相場の仲値が発表されている外貨については、以下のように評価しております。

特定期間末日において為替予約の受渡日の対顧客先物売買相場の仲値が発表されている場合は、当該為替予約は当該仲値で評価しております。

特定期間末日において為替予約の受渡日の対顧客先物売買相場の仲値が発表されていない場合は、以下の方法によっております。

- ・特定期間末日に為替予約の受渡日を超える対顧客先物売買相場が発表されている場合には、発表されている先物相場のうち当該日に最も近い前後二つの先物相場の仲値をもとに計算しております。
- ・特定期間末日に為替予約の受渡日を超える対顧客先物売買相場が発表されていない場合には、当該日に最も近い発表されている対顧客先物売買相場の仲値を用いております。

(2)特定期間末日に対顧客先物売買相場の仲値が発表されていない外貨については、特定期間末日の対顧客電信売買相場の仲値で評価しております。

2. 換算において円未満の端数は切り捨てております。
3. 契約額等及び時価の合計欄の金額は、各々の合計金額であります。
4. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引はありません。

(関連当事者との取引に関する注記)

| 前期 自 平成25年 8月21日 至 平成26年 2月20日 | 当期 自 平成26年 2月21日 至 平成26年 8月20日 |
|--------------------------------------|--------------------------------------|
| 該当する事項はありません。 | 同左 |

(1口当たり情報に関する注記)

| | 前期 (平成26年 2月20日現在) | 当期 (平成26年 8月20日現在) |
|---------------------------|-----------------------|-----------------------|
| 1口当たり純資産額 (1万口当たり純資産額) | 1.4045円 (14,045円) | 1.4242円 (14,242円) |

(4) 【附属明細表】

第1 有価証券明細表

株式

該当する事項はありません。

株式以外の有価証券

| 種類 | 通貨 | 銘柄 | 券面総額(口) | 評価額 | 備考 |
|---------------|---------|---------------------------|---------|-------------------------------|----|
| 投資信託 受益証券 | アメリカ・ドル | SPDRバークレイズ・ハイ・イールド債券ETF | 115,245 | 4,764,228.30 | |
| | アメリカ・ドル | 小計 | 115,245 | 4,764,228.30 (490,667,872) | |
| 投資信託受益証券 小計 | | | | 490,667,872 (490,667,872) | |
| 親投資信託 受益証券 | 円 | ステート・ストリート短期 国債マザーファンド | 49,881 | 50,155 | |
| | 円 | 小計 | 49,881 | 50,155 (50,155) | |
| 親投資信託受益証券 小計 | | | | 50,155 (50,155) | |
| 合計 | | | | 490,718,027 (490,667,872) | |

(注) 1. 通貨種類毎の小計欄の()内は、邦貨換算額であります。

2. 合計金額欄の()内は、外貨建有価証券に係わるもので、内書であります。

3. 投資信託受益証券及び親投資信託受益証券における券面総額は、証券数です。

外貨建有価証券の内訳

| 通貨 | 銘柄数 | 組入投資信託 受益証券時価比率 | 有価証券の合計額に 対する比率 |
|---------|--------------|--------------------|--------------------|
| アメリカ・ドル | 投資信託受益証券 1銘柄 | 100.0% | 100.0% |

(注)組入投資信託受益証券時価比率は時価の合計額に対する通貨毎の比率であります。

第2 信用取引契約残高明細表

該当する事項はありません。

第3 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

「注記表（デリバティブ取引等関係に関する注記）」に記載しております。

<参考>

当ファンドは「ステート・ストリート短期国債マザーファンド」受益証券を主要投資対象としており、貸借対照表の資産の部に計上された「親投資信託受益証券」は、すべて同親投資信託の受益証券であります。

なお、同親投資信託の状況は次の通りであります。

「ステート・ストリート短期国債マザーファンド」の状況

以下に記載した情報は監査の対象外であります。

(1) 貸借対照表

(単位：円)

| 区 分 | 注記 番号 | (平成26年 2月20日現在) | (平成26年 8月20日現在) |
|-------------|----------|-----------------|-----------------|
| | | 金 額 | 金 額 |
| 資産の部 | | | |
| 流動資産 | | | |
| コール・ローン | | 60,856,340 | 55,912,538 |
| 国債証券 | | 60,934,523,000 | 6,614,681,000 |
| 未収利息 | | 84,548,464 | 6,185,157 |
| 前払費用 | | 6,949,982 | 586,299 |
| 流動資産合計 | | 61,086,877,786 | 6,677,364,994 |
| 資産合計 | | 61,086,877,786 | 6,677,364,994 |
| 純資産の部 | | | |
| 元本等 | | | |
| 元本 | 1 | 60,789,476,342 | 6,640,728,786 |
| 剰余金 | | | |
| 剰余金又は欠損金() | | 297,401,444 | 36,636,208 |
| 元本等合計 | | 61,086,877,786 | 6,677,364,994 |
| 純資産合計 | | 61,086,877,786 | 6,677,364,994 |
| 負債純資産合計 | | 61,086,877,786 | 6,677,364,994 |

(注)親投資信託の計算期間は、原則として、毎年4月16日から、翌年4月15日までであり、当ファンドの計算期間と異なります。

(2) 注記表

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

| | |
|-------------------|--|
| 1 有価証券の評価基準及び評価方法 | <p>国債証券</p> <p>個別法に基づき、時価で評価しております。時価評価にあたっては、金融商品取引業者、銀行等の提示する価額（但し、売気配相場は使用しない）、又は価格情報会社の提供する価額等で評価しております。</p> |
|-------------------|--|

（貸借対照表に関する注記）

| 区 分 | （平成26年 2月20日現在） | （平成26年 8月20日現在） |
|-------------------------------------|-----------------|-----------------|
| 1 期首元本額 | 96,276,467,598円 | 60,789,476,342円 |
| 期中追加設定元本額 | 3,125,954,719円 | 5,966,474円 |
| 期中一部解約元本額 | 38,612,945,975円 | 54,154,714,030円 |
| 元本の内訳 | | |
| ファンド名 | | |
| ステート・ストリート短期国債ファン ドVA<適格機関投資家限定> | 60,789,326,829円 | 6,640,579,273円 |
| ステート・ストリートUSハイ・イー ルド債券オープン | 49,881円 | 49,881円 |
| ステートストリート・ゴールドファン ド（為替ヘッジあり） | 99,632円 | 99,632円 |
| 計 | 60,789,476,342円 | 6,640,728,786円 |
| 2 受益権の総数 | 60,789,476,342口 | 6,640,728,786口 |

（金融商品に関する注記）

金融商品の状況に関する事項

| | |
|-------------------------|---|
| 1 金融商品に対する取組方針 | 当ファンドは証券投資信託として、有価証券等の金融商品への投資並びにデリバティブ取引を信託約款に定める「運用の基本方針」に基づき行っております。 |
| 2 金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク | 当ファンドが保有する金融商品の種類は、有価証券、コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務であります。当ファンドが保有する有価証券の詳細は「（3）附属明細表」に記載しております。これらは、価格変動リスク等の市場リスク及び信用リスクに晒されております。 |
| 3 金融商品に係るリスク管理体制 | 運用部に属するポートフォリオ・マネージャーは約款に定める運用方針に加え、内部ガイドラインを作成し、徹底したリスク管理と厳格なポートフォリオ管理を行っております。また、業務管理部の運用評価グループは、毎月パフォーマンス分析レポートを作成し、月次収益率及び対ベンチマーク超過収益率の算出と要因分析を行っております。さらに、コンプライアンス・リスクマネジメント部では、全ファンドにおける運用ガイドライン遵守状況を運用部から離れた立場で確認しており、投資政策委員会において投資行動やパフォーマンスに関する運用の報告内容を確認するとともに、毎月末の運用ガイドライン遵守状況等の確認をしております。 |

金融商品の時価等に関する事項

| 区 分 | （平成26年 2月20日現在） | （平成26年 8月20日現在） |
|---------------------------|---|---|
| 1 貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額 | 貸借対照表計上額は時価を計上しているため、その差額はありません。 | 同左 |
| 2 金融商品の時価の算定方法 | <p>(1)有価証券及びデリバティブ取引以外の金融商品 有価証券及びデリバティブ取引以外の金融商品については、短期間で決済されることから、時価は帳簿価額と近似しているため、当該金融商品の帳簿価額を時価としております。</p> <p>(2)有価証券 売買目的有価証券 「注記表（重要な会計方針に係る事項に関する注記）」に記載しております。</p> <p>(3)デリバティブ取引 該当する事項はありません。</p> | <p>(1)有価証券及びデリバティブ取引以外の金融商品 同左</p> <p>(2)有価証券 売買目的有価証券 同左</p> <p>(3)デリバティブ取引 同左</p> |
| 3 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明 | 金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。 | 同左 |

（有価証券関係に関する注記）

売買目的有価証券

（単位：円）

| 種 類 | （平成26年 2月20日現在） | （平成26年 8月20日現在） |
|------|-----------------|-----------------|
| | 当期間の損益に含まれた評価差額 | 当期間の損益に含まれた評価差額 |
| 国債証券 | 153,551,500 | 4,739,000 |
| 合計 | 153,551,500 | 4,739,000 |

（注）「当期間」とは当親投資信託の計算期間の開始日から本報告書における開示対象ファンドの期末日までを指しております。

（デリバティブ取引等関係に関する注記）

該当する事項はありません。

（関連当事者との取引に関する注記）

| | |
|--------------------------------|--------------------------------|
| 自 平成25年 8月21日 至 平成26年 2月20日 | 自 平成26年 2月21日 至 平成26年 8月20日 |
| 該当する事項はありません。 | 同左 |

(1口当たり情報に関する注記)

| | | |
|-----------------------------|------------------------|------------------------|
| | (平成26年 2月20日現在) | (平成26年 8月20日現在) |
| 1口当たり純資産額 (1万口当たり純資産額) | 1.0049円 (10,049円) | 1.0055円 (10,055円) |

(3) 附属明細表

第 1 有価証券明細表

株式

該当する事項はありません。

株式以外の有価証券

| 種 類 | 銘 柄 | 券面総額 (口) | 評価額 (円) | 備考 |
|--------|-------------------------|---------------|---------------|----|
| 国債証券 | 第 2 6 6 回利付国債 (1 0 年) | 500,000,000 | 502,250,000 | |
| | 第 2 6 8 回利付国債 (1 0 年) | 500,000,000 | 504,225,000 | |
| | 第 3 2 2 回利付国債 (2 年) | 600,000,000 | 600,096,000 | |
| | 第 3 2 6 回利付国債 (2 年) | 1,000,000,000 | 1,000,360,000 | |
| | 第 3 2 9 回利付国債 (2 年) | 1,000,000,000 | 1,001,300,000 | |
| | 第 9 0 回利付国債 (5 年) | 3,000,000,000 | 3,006,450,000 | |
| 国債証券小計 | | 6,600,000,000 | 6,614,681,000 | |
| 合計 | | 6,600,000,000 | 6,614,681,000 | |

第 2 信用取引契約残高明細表

該当する事項はありません。

第 3 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当する事項はありません。

2 【ファンドの現況】

【純資産額計算書】

(平成26年9月30日現在)

| | |
|-----------------|--------------|
| 資産総額 | 488,564,657円 |
| 負債総額 | 5,781,950円 |
| 純資産総額 (-) | 482,782,707円 |
| 発行済口数 | 329,788,817口 |
| 1口当たり純資産額 (/) | 1.4639円 |

第4【内国投資信託受益証券事務の概要】

受益者が委託会社に対して行う下記の手続きは、販売会社を通じて、委託会社に請求することにより行うことができます。詳しくは販売会社にお問い合わせください。

(1) 受益証券の名義書換等

ファンドの受益権の帰属は、振替機関等の振替口座簿に記載または記録されることにより定まります。委託会社は、この信託の受益権を取り扱う振替機関が社振法の規定により主務大臣の指定を取り消された場合または当該指定が効力を失った場合であって、当該振替機関の振替業を承継する者が存在しない場合その他やむを得ない事情がある場合を除き、当該振替受益権を表示する受益証券を発行しません。従って該当事項はありません。

なお、受益者は、委託会社がやむを得ない事情等により受益証券を発行する場合を除き、無記名式受益証券から記名式受益証券への変更の請求、記名式受益証券から無記名式受益証券への変更の請求、受益証券の再発行の請求を行わないものとします。

(2) 受益者等名簿の閉鎖の時期

該当事項はありません。

(3) 受益者等に対する特典

該当事項はありません。

(4) 内国投資信託受益証券の譲渡制限の内容

< 受益権の譲渡 >

受益者は、その保有する受益権を譲渡する場合には、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿に係る振替機関等に振替の申請をするものとします。

上記の申請のある場合には、上記の振替機関等は、当該譲渡に係る譲渡人の保有する受益権の口数の減少および譲受人の保有する受益権の口数の増加につき、その備える振替口座簿に記載または記録するものとします。ただし、上記の振替機関等が振替先口座を開設したものでない場合には、譲受人の振替先口座を開設した他の振替機関等（当該他の振替機関等の上位機関を含みます。）に社振法の規定にしたがい、譲受人の振替先口座に受益権の口数の増加の記載または記録が行われるよう通知するものとします。

上記の振替について、委託会社は、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿に係る振替機関等と譲受人の振替先口座を開設した振替機関等が異なる場合等において、委託会社が必要と認めるときまたはやむをえない事情があると判断したときは、振替停止日や振替停止期間を設けることができます。

< 受益権の譲渡の対抗要件 >

受益権の譲渡は、振替口座簿への記載または記録によらなければ、委託会社および受託会社に対抗することができません。

(5) その他内国投資信託受益証券事務に関し投資者に示すことが必要な事項

< 受益権の再分割 >

委託会社は、受託会社と協議のうえ、一定日現在の受益権を均等に再分割できるものとします。

< 償還金 >

償還金は、償還日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者（償還日以前において一部解約が行われた受益権にかかる受益者を除きます。また、当該償還日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者としてします。）に支払います。

< 質権口記載又は記録の受益権の取り扱いについて >

振替機関等の振替口座簿の質権口に記載または記録されている受益権にかかる収益分配金の支払い、一部解約の実行の請求の受付け、一部解約金および償還金の支払い等については、信託約款の規定によるほか、民法その他の法令等にしたがって取り扱われます。

第三部【委託会社等の情報】

第1【委託会社等の概況】

1【委託会社等の概況】

(1) 資本金の額

資本金の額

委託会社の資本金の額は金3億1千万円です(平成26年9月30日現在)。

発行する株式の総数

委託会社の発行する株式の総数は6,200株です(平成26年9月30日現在)。

発行済株式の総数

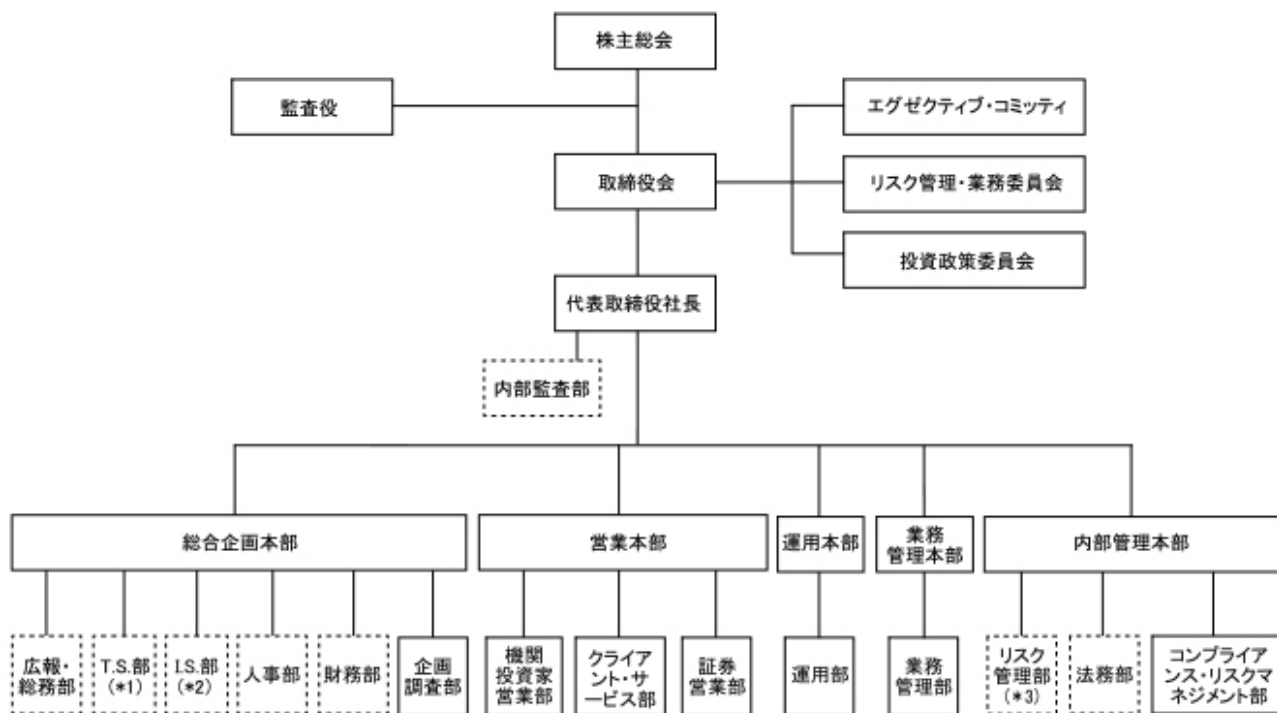
委託会社の発行済株式総数は6,200株です(平成26年9月30日現在)。

最近5年間における主な資本金の額の増減

該当事項はありません。

(2) 委託会社の機構

組織図



(注1) 内部管理本部の代表者は内部管理統括責任者の職を担う。

(注2) 破線で囲われた部門は関連金融機関との兼務部門

(注3) (*1)T.S.部はテクノロジー・サービス部、(*2)I.S.部はインフラストラクチャー・サービス部の略称、(*3)リスク管理部はITリスク管理を行う。

取締役会は、委託会社の業務執行の基本方針を決定します。代表取締役社長は、委託会社を代表し、全般の業務執行について指揮統括します。取締役は、委嘱された業務の執行にあたり、また、代表取締役社長に事故があるときにその職務を代行します。監査役は、委託会社の会計監査および業務監査を行います。各部には、部長をおき、部長は、代表取締役社長または取締役の命を受け、所属員を指揮監督し、部の業務を統括します。

各部の業務分掌体制は以下の通りとなっています。

| 部署名 | 業務内容 |
|-----|------|
|-----|------|

| | | |
|--------|---------------------|--|
| 営業本部 | 機関投資家営業部 | 投資運用業務、投資助言業務に係る顧客の開拓、投資信託販売会社との交渉・連絡、コンサルタントとの折衝等 |
| | クライアント・サービス部 | 投資運用業務、投資助言業務のサポート、投資信託販売会社との交渉・連絡、コンサルタントとの折衝等 |
| | 証券営業部 | グループ会社の運用するETF、海外ファンド等の国内投資家向け需要喚起・勧誘、自社設定投信の企画・勧誘等 |
| 運用本部 | 運用部 | 投資一任・助言に係る資産及び投資信託の運用の指図、売買発注、運用報告の作成、運用手法・運用モデルの研究開発等 |
| 業務管理本部 | 業務管理部 | 資産運用管理業務、投資信託管理業務、運用報告書等の作成、投資パフォーマンスの計測・要因分析等 |
| 総合企画本部 | 企画調査部 | 商品設計、法定書面、契約締結手続き、広告、営業イベント企画、市場動向調査等の各種ビジネス・サポート |
| | 財務部 | 会社経理・決算、税務申告、予算管理等の経理業務、ディスクロージャー資料作成等 |
| | 人事部 | 福利厚生、給与支払等の人事に関する事務的業務 |
| | インフラストラクチャー・サービス部 | 電子情報処理組織の保守および管理に関する業務[コンピュータ機器及び付属機器の設置・保守管理]、SSgAのソフトウェアの開発・PC管理・サポート、システム管理 |
| | テクノロジー・サービス部 | 電子情報処理組織の保守および管理に関する業務[ソフトウェアの開発・保守管理、セキュリティ管理] |
| 内部管理本部 | 広報・総務部 | 対外広報管理等の広報に関する業務（広報業務）および備品の購入・管理、オフィスの安全・防犯管理等の総務関連業務（総務業務）、メンテナンスを含む施設管理に関する業務（管財業務） |
| | コンプライアンス・リスクマネジメント部 | 法令遵守状況の確認・指導、投資判断その他に関するリスク管理、内部管理責任者、情報管理責任者、広告審査、内部監査対応等 |
| | 法務部 | 法務調査・契約書類等の作成等の法務的業務 |
| | リスク管理部 | ITリスク管理に関する事項（情報セキュリティ管理を除く） |
| | 内部監査部 | 経営諸活動の内部統制システムの妥当性や有効性について検証・評価し、その結果及び改善案を経営陣に対して報告 |

投資運用の意思決定機構

1) 運用基本方針の決定

投資政策委員会で、投資対象地域経済、産業、政治について更に精緻に分析を行い、投資対象企業、債券を様々な面より分析しつつ、基本的な運用方針を決定します。

2) 運用実施計画の作成

ファンド・マネージャーは決定された運用基本方針に基づいて、具体的な銘柄選択と運用実施計画を作成します。

3) 運用の実行

ファンド・マネージャーは運用計画に基づいて、組入有価証券の売買等を指図します。

2【事業の内容及び営業の概況】

「投資信託及び投資法人に関する法律」に定める投資信託委託会社である委託者は、証券投資信託の設定を行うとともに金融商品取引法に定める金融商品取引業者としてその運用（投資運用業）を行って

ます。また金融商品取引法に定める投資助言業、第一種金融商品取引業及び第二種金融商品取引業を行っています。

平成26年9月30日現在、委託会社の運用する証券投資信託は、合計106本であり、その純資産総額は1,361,926百万円です(親投資信託を除く、公募投資信託および私募投資信託の合計値です。)

3【委託会社等の経理状況】

1. 委託会社であるステート・ストリート・グローバル・アドバイザーズ株式会社（以下「委託会社」といいます。）の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号、以下「財務諸表等規則」といいます。）ならびに同規則第2条の規定に基づき、「金融商品取引業等に関する内閣府令」（平成19年8月6日内閣府令第52号）により作成しております。
2. 当事業年度（平成25年4月1日から平成26年3月31日まで）の財務諸表に含まれる比較情報については、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」（平成24年9月21日内閣府令第61号）附則第2条第2項により、改正前の財務諸表等規則に基づいて作成しております。
3. 委託会社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、当事業年度（平成25年4月1日から平成26年3月31日まで）の財務諸表について、新日本有限責任監査法人の監査を受けております。

1. 財務諸表

(1) 【貸借対照表】

(単位：千円)

| 期 別 科 目 | 前事業年度 (平成25年3月31日現在) | | 当事業年度 (平成26年3月31日現在) | |
|------------|-------------------------|-------|-------------------------|-------|
| | 金 額 | 構成比 | 金 額 | 構成比 |
| (資産の部) | | % | | % |
| 流動資産 | | | | |
| 預金 | 7,198,847 | | 7,950,582 | |
| 有価証券 | 52,323 | | 34,680 | |
| 前払金 | 18,914 | | 16,211 | |
| 前払費用 | 9,826 | | 14,721 | |
| 未収入金 | 543,987 | | 603,386 | |
| 未収委託者報酬 | 443,028 | | 503,082 | |
| 未収収益 | 15,224 | | 21,586 | |
| 繰延税金資産 | 50,078 | | 76,778 | |
| 流動資産計 | 8,332,231 | 96.9 | 9,221,030 | 97.5 |
| 固定資産 | | | | |
| 有形固定資産 | 136,869 | | 114,512 | |
| 建物附属設備 | 116,383 | | 103,804 | |
| 器具備品 | 15,144 | | 8,419 | |
| リース資産 | 5,341 | | 2,289 | |
| 無形固定資産 | 2,025 | | 1,407 | |
| ソフトウェア | 2,025 | | 1,407 | |
| 投資その他の資産 | 125,804 | | 116,869 | |
| 長期差入保証金 | 75,397 | | 66,322 | |
| 繰延税金資産 | 45,557 | | 45,696 | |
| その他投資 | 4,850 | | 4,850 | |
| 固定資産計 | 264,699 | 3.1 | 232,789 | 2.5 |
| 資産合計 | 8,596,931 | 100.0 | 9,453,819 | 100.0 |

(単位：千円)

| 期 別 科 目 | 前事業年度 (平成25年3月31日現在) | | 当事業年度 (平成26年3月31日現在) | |
|------------|-------------------------|-----|-------------------------|-----|
| | 金 額 | 構成比 | 金 額 | 構成比 |
| (負債の部) | | % | | % |
| 流動負債 | | | | |
| 預り金 | 30,901 | | 23,420 | |
| 未払金 | 198,194 | | 249,155 | |
| 未払手数料 | 118,440 | | 122,594 | |
| その他未払金 | 79,754 | | 126,561 | |
| 未払費用 | 42,048 | | 11,232 | |
| 未払法人税等 | 303,031 | | 406,211 | |
| 未払消費税 | 19,248 | | 31,826 | |
| 賞与引当金 | 39,149 | | 57,068 | |
| リース債務 | 1,943 | | 4,910 | |
| 流動負債計 | 634,516 | 7.4 | 783,826 | 8.3 |
| 固定負債 | | | | |
| 退職給付引当金 | 76,324 | | 66,635 | |
| 長期リース債務 | 4,910 | | - | |
| 固定負債計 | 81,234 | 0.9 | 66,635 | 0.7 |

| | | | | | | |
|----------|-----------|-----------|-------|-----------|-----------|-------|
| 負債合計 | | 715,751 | 8.3 | | 850,462 | 9.0 |
| (純資産の部) | | | % | | | % |
| 株主資本 | | 7,881,180 | 91.7 | | 8,603,357 | 91.0 |
| 資本金 | 310,000 | | | 310,000 | | |
| 利益剰余金 | | | | | | |
| 利益準備金 | 77,500 | | | 77,500 | | |
| その他利益剰余金 | | | | | | |
| 別途積立金 | 31,620 | | | 31,620 | | |
| 繰越利益剰余金 | 7,462,060 | | | 8,184,237 | | |
| 純資産合計 | | 7,881,180 | 91.7 | | 8,603,357 | 91.0 |
| 負債・純資産合計 | | 8,596,931 | 100.0 | | 9,453,819 | 100.0 |

(2) 【損益計算書】

(単位：千円)

| 期 別 | 前事業年度 | | 当事業年度 | |
|-----------|--------------|--------------|--------------|--------------|
| | 自 平成24年4月 1日 | 至 平成25年3月31日 | 自 平成25年4月 1日 | 至 平成26年3月31日 |
| 科 目 | 金 額 | 構成比 | 金 額 | 構成比 |
| 営業収益 | | % | | % |
| 委託者報酬 | 1,985,885 | | 2,386,697 | |
| 投資顧問収入 | 1,419,249 | | 1,524,966 | |
| その他営業収益 | 556,047 | | 567,688 | |
| 営業収益計 | 3,961,182 | 100.0 | 4,479,352 | 100.0 |
| 営業費用 | | | | |
| 支払手数料 | 489,095 | | 583,489 | |
| 広告宣伝費 | 13,166 | | 15,984 | |
| 公告費 | 1,220 | | 2,082 | |
| 調査費 | 483,166 | | 408,932 | |
| 調査費 | 292,449 | | 280,837 | |
| 委託調査費 | 189,179 | | 126,204 | |
| 図書費 | 1,538 | | 1,890 | |
| 委託計算費 | 160,372 | | 157,812 | |
| 営業雑経費 | 51,741 | | 29,404 | |
| 通信費 | 6,614 | | 5,633 | |
| 印刷費 | 15,237 | | 7,614 | |
| 協会費 | 13,533 | | 7,975 | |
| 諸会費 | 4,057 | | 2,894 | |
| その他 | 12,298 | | 5,286 | |
| 営業費用計 | 1,198,762 | 30.3 | 1,197,707 | 26.7 |
| 一般管理費 | | | | |
| 給料 | 1,352,561 | | 1,314,409 | |
| 役員報酬 | 410,448 | | 344,116 | |
| 給料・手当 | 753,389 | | 692,068 | |
| 賞与 | 160,812 | | 232,545 | |
| 賞与引当金繰入額 | 27,911 | | 45,678 | |
| 交際費 | 4,388 | | 2,778 | |
| 旅費交通費 | 28,270 | | 33,064 | |
| 租税公課 | 21,104 | | 23,883 | |
| 不動産賃借料 | 128,620 | | 131,057 | |
| 退職給付費用 | 77,661 | | 57,037 | |
| 固定資産減価償却費 | 24,770 | | 22,735 | |
| 福利厚生費 | 73,379 | | 79,311 | |
| 事務手数料 | 13,121 | | 22,320 | |

| | | | | | | |
|--------------|--|-----------|------|--|-----------|------|
| 諸経費 | | 149,074 | | | 179,736 | |
| 一般管理費計 | | 1,872,954 | 47.3 | | 1,866,335 | 41.7 |
| 営業利益 | | 889,465 | 22.5 | | 1,415,309 | 31.6 |
| 営業外収益 | | | | | | |
| 受取利息 | | - | | | 0 | |
| 為替差益 | | 2,744 | | | - | |
| 有価証券運用益 | | 2,846 | | | - | |
| 事業再構築引当金戻入 | | - | | | 222 | |
| 雑収入 | | 3,275 | | | 548 | |
| 営業外収益計 | | 8,866 | 0.2 | | 771 | 0.0 |
| 営業外費用 | | | | | | |
| 支払利息 | | 407 | | | 280 | |
| 為替差損 | | - | | | 1,184 | |
| 有価証券運用損 | | - | | | 1,386 | |
| 雑損失 | | 563 | | | 257 | |
| 営業外費用計 | | 970 | 0.0 | | 3,109 | 0.1 |
| 経常利益 | | 897,362 | 22.7 | | 1,412,971 | 31.5 |
| 特別損失 | | | | | | |
| 事業再構築費用 | | 8,453 | | | 102,702 | |
| 事務処理損失 | | 236 | | | 953 | |
| 特別損失計 | | 8,690 | 0.2 | | 103,655 | 2.3 |
| 税引前当期純利益 | | 888,671 | 22.4 | | 1,309,315 | 29.2 |
| 法人税、住民税及び事業税 | | 472,566 | 11.9 | | 613,977 | 13.7 |
| 法人税等調整額 | | 18,753 | 0.5 | | 26,839 | 0.6 |
| 当期純利益 | | 434,858 | 11.0 | | 722,177 | 16.1 |

(3) 【株主資本等変動計算書】

前事業年度（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

（単位：千円）

| | 株主資本 | | | | | | | 株主資本 合計 | 純資産合計 |
|---------|---------|-------|-------------|--------|--------------|-------------|-------------|------------|-----------|
| | 資本金 | 資本剰余金 | | 利益準備金 | 利益剰余金 | | 利益剰余金 合計 | | |
| | | 資本準備金 | 資本剰余金 合計 | | その他利益 剰余金 | | | | |
| | | | | | 別途積立金 | 繰越利益 剰余金 | | | |
| 当期首残高 | 310,000 | - | - | 77,500 | 31,620 | 7,027,201 | 7,136,321 | 7,446,321 | 7,446,321 |
| 当期変動額 | | | | | | | | | |
| 当期純利益 | - | - | - | - | - | 434,858 | 434,858 | 434,858 | 434,858 |
| 当期変動額合計 | - | - | - | - | - | 434,858 | 434,858 | 434,858 | 434,858 |
| 当期末残高 | 310,000 | - | - | 77,500 | 31,620 | 7,462,060 | 7,571,180 | 7,881,180 | 7,881,180 |

当事業年度（自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日）

（単位：千円）

| | 株主資本 | | | | | | | 株主資本 合計 | 純資産合計 |
|---------|---------|-------|-------------|--------|--------------|-------------|-------------|------------|-----------|
| | 資本金 | 資本剰余金 | | 利益準備金 | 利益剰余金 | | 利益剰余金 合計 | | |
| | | 資本準備金 | 資本剰余金 合計 | | その他利益 剰余金 | | | | |
| | | | | | 別途積立金 | 繰越利益 剰余金 | | | |
| 当期首残高 | 310,000 | - | - | 77,500 | 31,620 | 7,462,060 | 7,571,180 | 7,881,180 | 7,881,180 |
| 当期変動額 | | | | | | | | | |
| 当期純利益 | - | - | - | - | - | 722,177 | 722,177 | 722,177 | 722,177 |
| 当期変動額合計 | - | - | - | - | - | 722,177 | 722,177 | 722,177 | 722,177 |
| 当期末残高 | 310,000 | - | - | 77,500 | 31,620 | 8,184,237 | 8,293,357 | 8,603,357 | 8,603,357 |

[重要な会計方針]

| | |
|---------------------------|---|
| 1. 有価証券の評価基準及び評価方法 | 有価証券 売買目的有価証券 決算期末日の市場価格等に基づく時価法（取得原価は移動平均法により算定）を採用しております。 |
| 2. 固定資産の減価償却方法 | (1) 有形固定資産 リース資産以外の有形固定資産 定額法により償却しております。なお、主な耐用年数は以下の通りであります。 建物附属設備 6～18年 器具備品 5～15年 リース資産 所有権移転外ファイナンス・リース取引にかかるリース資産 リース期間を耐用年数とし、残存価額をゼロとして算定する方法によっております。 (2) 無形固定資産 定額法により償却しております。 なお、ソフトウェア(自社利用)については、社内における見込利用可能期間(5年)に基づく定額法を採用しております |
| 3. 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準 | 外貨建金銭債権債務は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。 |
| 4. 引当金の計上基準 | (1) 賞与引当金 従業員等に対する賞与の支給に備えるため、支給見込額のうち当期に負担すべき金額を計上しております。 (2) 退職給付引当金 退職給付引当金は、従業員等の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、必要額を計上しております。 退職給付見込額の期間帰属方法 退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、期間定額基準によっております。 数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法 過去勤務費用 その発生年度の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数（11年）による定額法により費用処理しております。 数理計算上の差異 発生の翌事業年度に一括費用処理しております。 |
| 5. その他 財務諸表作成のための重要な事項 | 消費税等の処理方法 消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。 |

注記事項

(貸借対照表関係)

| | |
|------------------------|------------------------|
| 前事業年度 (平成25年3月31現在) | 当事業年度 (平成26年3月31現在) |
|------------------------|------------------------|

| | |
|---|---|
| <p>1. 有形固定資産の減価償却累計額</p> <p>建物附属設備 75,441千円</p> <p>器具備品 42,781千円</p> <p>リース資産 3,815千円</p> | <p>1. 有形固定資産の減価償却累計額</p> <p>建物附属設備 88,020千円</p> <p>器具備品 48,355千円</p> <p>リース資産 6,867千円</p> |
| <p>2. 無形固定資産の減価償却累計額</p> <p>ソフトウェア 9,499千円</p> | <p>2. 無形固定資産の減価償却累計額</p> <p>ソフトウェア 10,117千円</p> |
| <p>関係会社に係る注記</p> <p>該当事項はありません。</p> | <p>関係会社に係る注記</p> <p>同左</p> |

(損益計算書関係)

| | |
|---|---|
| <p>前事業年度</p> <p>自 平成24年4月 1日</p> <p>至 平成25年3月31日</p> | <p>当事業年度</p> <p>自 平成25年4月 1日</p> <p>至 平成26年3月31日</p> |
| <p>1. 移転価格調整金の取り扱いに係る注記</p> <p>当社とステート・ストリート・バンク・アンド・トラスト・カンパニーはグループ間移転価格調整の方針に従って調整額を精算することとしております。当事業年度に、ステート・ストリート・バンク・アンド・トラスト・カンパニーから当社に支払われた調整額547,935千円は、損益計算書のその他営業収益に含まれております。</p> | <p>1. 移転価格調整金の取り扱いに係る注記</p> <p>当社とステート・ストリート・バンク・アンド・トラスト・カンパニーはグループ間移転価格調整の方針に従って調整額を精算することとしております。当事業年度に、ステート・ストリート・バンク・アンド・トラスト・カンパニーから当社に支払われた調整額557,461千円は、損益計算書のその他営業収益に含まれております。</p> |
| <p>関係会社に係る注記</p> <p>該当事項はありません。</p> | <p>関係会社に係る注記</p> <p>同左</p> |

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

| | 当事業年度期首 | 当期増加株式数 | 当期減少株式数 | 当事業年度末 |
|-------|---------|---------|---------|--------|
| 発行済株式 | 6,200株 | - | - | 6,200株 |

当事業年度（自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日）

| | 当事業年度期首 | 当期増加株式数 | 当期減少株式数 | 当事業年度末 |
|-------|---------|---------|---------|--------|
| 発行済株式 | 6,200株 | - | - | 6,200株 |

(リース取引関係)

| | |
|--|--|
| <p>前事業年度</p> <p>自 平成24年4月 1日</p> <p>至 平成25年3月31日</p> | <p>当事業年度</p> <p>自 平成25年4月 1日</p> <p>至 平成26年3月31日</p> |
| <p>所有権移転外ファイナンス・リース取引</p> <p>リース資産の内容</p> <p>社用車両であります。</p> <p>リース資産の減価償却の方法</p> <p>重要な会計方針「2.固定資産の減却償却方法」に記載の通りであります。</p> | <p>同左</p> |

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社は、投資運用業、投資助言業、第二種金融商品取引業及び第一種金融商品取引業を行っております。これらの事業を行うための資金運用については、短期的な預金等に限定し、資金調達については、現状必要性を想定しておりません。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

当社の営業債権である未収委託者報酬は、投資信託及び投資法人に関する法律により、信託銀行において分別管理される信託財産のため、当該報酬は、計理上日々の未払委託者報酬として投資信託財産の負債項目に計上されております。このため、顧客の信用リスクは限定されております。

同じく営業債権である未収投資顧問料は、概ね6か月以内に回収される債権であり、また顧客の業種等も多岐にわたり分散されていることから、顧客の信用リスクは限定されております。

2. 金融商品の時価等に関する事項

貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次の通りであります。

平成25年3月31日現在

(単位：千円)

| | 貸借対照表計上額 | 時価 | 差額 |
|------------|-----------|-----------|----|
| (1)預金 | 7,198,847 | 7,198,847 | |
| (2)未収委託者報酬 | 443,028 | 443,028 | |
| (3)未収入金 | 543,987 | 543,987 | |
| (4)未払手数料 | 118,440 | 118,440 | |

(注1) 金融商品の時価の算定方法に関する事項

(1) 預金

預金は、すべて満期のない預金であり、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。

(2) 未収委託者報酬、(3)未収入金及び(4)未払手数料

これらは短期間で決済され、時価は帳簿価額に近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(注2) 金銭債権の決算日後の償還予定額

償還予定までの期間が1年を超えるものではありません。

(注3) 社債、長期借入金、リース債務およびその他の有利子負債の決算日後の返済予定額

記載すべき事項はありません。

平成26年3月31日現在

(単位：千円)

| | 貸借対照表計上額 | 時価 | 差額 |
|------------|-----------|-----------|----|
| (1)預金 | 7,950,582 | 7,950,582 | |
| (2)未収委託者報酬 | 503,082 | 503,082 | |
| (3)未収入金 | 603,386 | 603,386 | |
| (4)未払手数料 | 122,594 | 122,594 | |

(注1) 金融商品の時価の算定方法に関する事項

(1) 預金

預金は、すべて満期のない預金であり、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。

(2) 未収委託者報酬、(3)未収入金及び(4)未払手数料

これらは短期間で決済され、時価は帳簿価額に近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(注2) 金銭債権の決算日後の償還予定額

償還予定までの期間が1年を超えるものではありません。

(注3) 社債、長期借入金、リース債務およびその他の有利子負債の決算日後の返済予定額

記載すべき事項はありません。

（有価証券関係）

| 前事業年度 (平成25年3月31日現在) | 当事業年度 (平成26年3月31日現在) |
|---|---|
| 売買目的の有価証券 貸借対照表計上額 52,323千円 当事業年度の損益 に含まれた評価差額 5,353千円 | 売買目的の有価証券 貸借対照表計上額 34,680千円 当事業年度の損益 に含まれた評価差額 700千円 |

（デリバティブ取引関係）

| 前事業年度 自 平成24年4月 1日 至 平成25年3月31日 | 当事業年度 自 平成25年4月 1日 至 平成26年3月31日 |
|---------------------------------------|---------------------------------------|
| 該当事項はありません。 | 同左 |

（退職給付関係）

1．採用している退職給付制度の概要

前事業年度（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

平成23年4月1日に確定給付企業年金制度（キャッシュ・バランス・プラン）、確定拠出年金制度を導入いたしました。また、平成12年9月29日より退職給付信託を設定しております

当事業年度（自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日）

平成23年4月1日に確定給付企業年金制度（キャッシュ・バランス・プラン）、確定拠出年金制度を導入いたしました。また、平成12年9月29日より退職給付信託を設定しております。

2．退職給付債務及びその内訳

(単位：千円)

| | 前事業年度 (平成25年3月31日現在) |
|----------------|-------------------------|
| 退職給付債務 | 395,579 |
| (1)年金資産 | 266,835 |
| (2)退職給付引当金 | 76,324 |
| (3)未認識数理計算上の差異 | 17,353 |
| (4)未認識過去勤務債務 | 69,773 |

(単位：千円)

| | 当事業年度 (平成26年3月31日現在) |
|----------------|-------------------------|
| 退職給付債務 | 391,473 |
| (1)年金資産 | 278,789 |
| (2)退職給付引当金 | 66,635 |
| (3)未認識数理計算上の差異 | 15,002 |
| (4)未認識過去勤務費用 | 61,051 |

3．年金資産の内訳

平成26年3月 31日現在における年金資産合計に対する分類ごとの比率は次の通りです。

| | |
|------------|-------|
| 保険資産（一般勘定） | 97.2% |
| その他 | 2.7% |

| | |
|----|--------|
| 合計 | 100.0% |
|----|--------|

4．退職給付費用の内訳

(単位：千円)

| | 前事業年度 |
|-------------------|------------------------------|
| | 自 平成24年4月 1日 至 平成25年3月31日 |
| 退職給付費用 | 61,177 |
| (1)勤務費用 | 55,747 |
| (2)利息費用 | 3,721 |
| (3)期待運用収益（減算） | 1,679 |
| (4)過去勤務債務の費用処理額 | 8,721 |
| (5)数理計算上の差異の費用処理額 | 5,334 |

(単位：千円)

| | 当事業年度 |
|-------------------|------------------------------|
| | 自 平成25年4月 1日 至 平成26年3月31日 |
| 退職給付費用 | 41,728 |
| (1)勤務費用 | 48,367 |
| (2)利息費用 | 3,955 |
| (3)期待運用収益（減算） | 1,962 |
| (4)過去勤務費用の費用処理額 | 8,721 |
| (5)数理計算上の差異の費用処理額 | 17,353 |

5．退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

(単位：千円)

| | 当事業年度 |
|--------------|------------------------------|
| | 自 平成25年4月 1日 至 平成26年3月31日 |
| 退職給付債務の期首残高 | 395,579 |
| 勤務費用 | 48,367 |
| 利息費用 | 3,955 |
| 数理計算上の差異の発生額 | 16,744 |
| 退職給付の支払額 | 39,683 |
| 退職給付債務の期末残高 | 391,473 |

6．年金資産の期首残高と期末残高の調整表

(単位：千円)

| | 当事業年度 |
|--------------|------------------------------|
| | 自 平成25年4月 1日 至 平成26年3月31日 |
| 年金資産の期首残高 | 266,835 |
| 期待運用収益 | 1,962 |
| 数理計算上の差異の発生額 | 1,742 |
| 事業主からの拠出額 | 51,416 |
| 退職給付の支払額 | 39,683 |
| 年金資産の期末残高 | 278,789 |

7. 退職給付債務及び年金資産の期末残高と貸借対照表に計上された退職給付引当金の調整表

(単位：千円)

| | 当事業年度 自 平成25年4月 1日 至 平成26年3月31日 |
|---------------------|---------------------------------------|
| 積立型制度の退職給付債務 | 391,473 |
| 年金資産 | 278,789 |
| | 112,684 |
| 非積立型制度の退職給付債務 | - |
| 未積立退職給付債務 | 112,684 |
| 未認識数理計算上の差異 | 15,002 |
| 未認識過去勤務費用 | 61,051 |
| 貸借対照表に計上された負債と資産の純額 | 66,635 |

8. 退職給付債務等の計算基礎に関する事項

| | 前事業年度 (平成25年3月31日現在) |
|-------------------|-------------------------|
| (1)割引率 | 1.0% |
| (2)期待運用収益率 | 0.75% |
| (3)退職給付見込額の期間配分方法 | 期間定額基準 |
| (4)過去勤務債務の処理年数 | 発生時より 11年 |
| (5)数理計算上の差異の処理年数 | 1年 |

| | 当事業年度 (平成26年3月31日現在) |
|-------------------|-------------------------|
| (1)割引率 | 1.0% |
| (2)長期期待運用収益率 | 0.75% |
| (3)退職給付見込額の期間配分方法 | 期間定額基準 |
| (4)過去勤務費用の処理年数 | 発生時より 11年 |
| (5)数理計算上の差異の処理年数 | 1年 |

9. 長期期待運用収益の設定方法

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しております。

10. 確定拠出制度

当事業年度（自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日）

当社の確定拠出制度への要拠出額は15,309千円であります。

(税効果会計関係)

| 前事業年度 自 平成24年4月 1日 至 平成25年3月31日 | 当事業年度 自 平成25年4月 1日 至 平成26年3月31日 |
|---------------------------------------|---------------------------------------|
| | |

| 1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳 | (単位：千円) | 1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳 | (単位：千円) |
|-------------------------------|-----------------|-------------------------------|------------------|
| 繰延税金資産（流動） | | 繰延税金資産（流動） | |
| 賞与引当金繰入超過額 | 10,609 | 賞与引当金繰入超過額 | 14,430 |
| 未払事業税 | 23,683 | 未払事業税 | 27,452 |
| その他 | 17,820 | その他 | 34,894 |
| 繰延税金資産（流動）合計 | 52,113 | 繰延税金資産（流動）合計 | 76,778 |
| 繰延税金負債（流動）との相殺 | 2,034 | 繰延税金負債（流動）との相殺 | - |
| 繰延税金資産（流動）の純額 | 50,078 | 繰延税金資産（流動）の純額 | 76,778 |
| 繰延税金資産（固定） | | 繰延税金資産（固定） | |
| 退職給付引当金 | 28,070 | 退職給付引当金 | 24,992 |
| その他 | 17,486 | その他 | 20,704 |
| 繰延税金資産（固定）合計 | 45,557 | 繰延税金資産（固定）合計 | 45,696 |
| 繰延税金負債（固定）との相殺 | - | 繰延税金負債（固定）との相殺 | - |
| 繰延税金資産（固定）の純額 | 45,557 | 繰延税金資産（固定）の純額 | 45,696 |
| 繰延税金資産合計 | 97,670 | 繰延税金資産合計 | 122,475 |
| 繰延税金負債（流動） | | 繰延税金負債（流動） | |
| その他 | 2,034 | その他 | - |
| 繰延税金負債（流動）合計 | 2,034 | 繰延税金負債（流動）合計 | - |
| 繰延税金資産（流動）との相殺 | 2,034 | 繰延税金資産（流動）との相殺 | - |
| 繰延税金負債（流動）の純額 | - | 繰延税金負債（流動）の純額 | - |
| 繰延税金負債（固定） | | 繰延税金負債（固定） | |
| 事業譲受に係る調整項目 | - | 事業譲受に係る調整項目 | - |
| 繰延税金負債（固定）合計 | - | 繰延税金負債（固定）合計 | - |
| 繰延税金資産（固定）との相殺 | - | 繰延税金資産（固定）との相殺 | - |
| 繰延税金負債（固定）の純額 | - | 繰延税金負債（固定）の純額 | - |
| 繰延税金資産の純額 | 95,635 ===== | 繰延税金資産の純額 | 122,475 ===== |

| 2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異の原因となった主要な項目別内訳 | 2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異の原因となった主要な項目別内訳 | | |
|--|--|--------------------|-------|
| 法定実効税率 | 38.0% | 法定実効税率 | 38.0% |
| 交際費等永久に損金に算入されない項目 | 12.4% | 交際費等永久に損金に算入されない項目 | 6.3% |
| その他 | 0.6% | その他 | 0.3% |
| 税効果会計適用後の法人税等の負担率 | 51.0% | 税効果会計適用後の法人税等の負担率 | 44.8% |
| ===== | | ===== | |

（税率変更に伴う影響）

「所得税法等の一部を改正する法律」（平成26年法律第10号）が平成26年3月31日に公布され、平成26年4月1日以後に開始する事業年度から復興特別法人税が廃止されることとなりました。これに伴い、平成26年4月1日に開始する事業年度に解消が見込まれる一時差異にかかる繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率は従来の38.01%から35.64%となります。この税率変更により、繰延税金資産は5百万円減少し、法人税等調整額は5百万円増加しております。

（企業結合関係等）

| 前事業年度 自 平成24年4月 1日 至 平成25年3月31日 | 当事業年度 自 平成25年4月 1日 至 平成26年3月31日 |
|---------------------------------------|---------------------------------------|
| 該当事項はありません。 | 同左 |

（資産除去債務関係）

前事業年度（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

(1) 資産除去債務の概要

当社は、本社オフィス及びバックアップセンターの不動産賃貸借契約に基づき、退去時における原状回復に係る債務を資産除去債務として認識しておりますが、当該資産除去債務に関しては、資産除去債務の負債計上に代えて、不動産賃貸借契約に関する長期差入保証金の回収が最終的に見込めないと認められる金額を合理的に見積り、そのうち当事業年度の負担に属する金額を費用に計上する方法によっております。

(2) 資産除去債務の金額の算定方法

使用見込期間を賃貸借契約期間と見積り、資産除去債務の金額を計算しております。

(3) 当事業年度における資産除去債務の総額の増減

当事業年度において、長期差入保証金の回収が最終的に見込めないと認められる金額として算定した金額は58,340千円であります。資産除去債務の総額は当事業年度において、資産除却費用の見積額を更新したことから、5,321千円減少しております。

当事業年度（自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日）

(1) 資産除去債務の概要

当社は、本社オフィス及びバックアップセンターの不動産賃貸借契約に基づき、退去時における原状回復に係る債務を資産除去債務として認識しておりますが、当該資産除去債務に関しては、資産除去債務の負債計上に代え

て、不動産賃貸借契約に関する長期差入保証金の回収が最終的に見込めないと認められる金額を合理的に見積り、そのうち当事業年度の負担に属する金額を費用に計上する方法によっております。

(2) 資産除去債務の金額の算定方法

使用見込期間を賃貸借契約期間と見積り、資産除去債務の金額を計算しております。

(セグメント情報)

1. セグメント情報

当社は、投資運用業の単一セグメントのため、記載を省略しております。

2. セグメント関連情報

1. 商品及びサービスに関する情報

単一の商品・サービスの区分の外部顧客への営業収益が損益計算書の営業収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

2. 地域に関する情報

営業収益

本邦に所在している顧客への収益が損益計算書の営業収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

なお、委託者報酬については、制度上、顧客情報を知り得ないため、集計対象より除外しております。

有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客に関する情報

委託者報酬については、制度上、顧客情報を知り得ないため、記載を省略しております。

また、投資顧問料については、顧客との守秘義務契約により、開示が出来ないため、記載を省略しております。

(報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報)

該当事項はありません。

(報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報)

該当事項はありません。

(報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報)

該当事項はありません。

(関連当事者情報)

関連当事者との取引

(1) 親会社及び法人主要株主等

該当事項はありません。

(2) 同一の親会社を持つ会社

前事業年度（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

| 当事業年度 | | | | | | | | | | | |
|--------------|------------|-----|------------------|-----------------------|-----------------------|------------|------------|-------|------------------|----|------------------|
| 自 平成24年4月 1日 | | | | | | | | | | | |
| 至 平成25年3月31日 | | | | | | | | | | | |
| 種 類 | 会社等の 名称 | 所在地 | 資本金 又は 出資金 | 事業の 内容 又は 職業 | 議決権の 所有(被所 有)割合 | 関連当事者との関係 | | 取引の内容 | 取引 金額 (千円) | 科目 | 期末 残高 (千円) |
| | | | | | | 役員の兼 任等 | 事業上 の関係 | | | | |

| | | | | | | | | | | | |
|-------------|--|------------------------|----------------------|-----------------------------|----|-------------------------|---|---|---|-----------------------------|------------------------------------|
| 同一の親会社を持つ会社 | ステート・ストリート・バンク・アンド・トラスト・カンパニー | 米国 マサチューセッツ州ボストン市 | 29百万 米ドル | 銀行、投資顧問、投資信託委託業務、及びそれらの関連業務 | なし | なし | 助言などの投資顧問サービスの提供並びに受入れ ソフトウェアの使用契約 人件費等及び事務手数料の支払 | 投資顧問料の受取 ソフトウェア使用料の支払 投資顧問料の支払 人件費等の支払 事務手数料の受取 | 119,883 201,074 171,376 295,287 547,935 | 未収入金 未払金 未払費用 | 104,719 2,898 13,381 |
| | ステート・ストリート信託銀行株式会社 | 東京都港区 | 25億円 | 銀行業 | なし | なし | 投資信託計理の事務サービスの受入れ 兼職社員の人件費支払等 | 投資信託計理業務委託 事務所賃借料の支払 人件費等の支払 | 36,270 4,052 129,797 | 前払金 未払金 | 18,914 3,174 |
| | ステート・ストリート・グローバル・アドバイザーズ・インテグリティ・キングダム | 英国 ロンドン | 62百万 ポンド | 投資顧問、投資信託委託業務 | なし | なし | 投資顧問サービスの提供並びに受入れ | 投資顧問料の受取 投資顧問料の支払 | 1,313 2,463 | - | - |
| | ステート・ストリート・マネジメント・S.A | ルクセンブルグ大公国 ルクセンブルグ市 | 12.5万 ユーロ | サービス業 | なし | あり 当社代表取締役が非常勤取締役に就任 | 投資顧問サービスの提供 | 投資顧問料の受取 | 41,935 | - | - |
| | ステート・ストリート・グローバル・アドバイザーズ・シンガポール | シンガポール シンガポール市 | 136万 シンガポール ドル | 投資顧問業 | なし | なし | 投資顧問サービスの提供及びETF商品の紹介 | 紹介料の受取 | 92 | - | - |

(注) 上記の金額のうち、ステート・ストリート信託銀行株式会社に関しましては、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には、消費税等が含まれております。

取引条件及び取引条件の決定方針等

- ソフトウェア使用料及び事務手数料については、グループ全体の費用を一定の基準で配分した金額に基づき決定しております。
- 人件費及び事務所賃借料については、実際支払額を基として支払いを行っております。
- 役員料については、当社との間で締結された役員提供契約に基づいて支払われております。
- 投資顧問料については、当社との間で締結された投資顧問契約に記載された料率に基づいて計算されております。
- ETF商品の紹介料については、当社との間で締結された役員提供契約に基づいて計算されております。

当事業年度（自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日）

| 種類 | 会社等の名称 | 所在地 | 資本金 又は 出資金 | 事業の内容 又は 職業 | 議決権の 所有(被所有)割合 | 関連当事者との関係 | | 取引の内容 | 取引 金額 (千円) | 科目 | 期末 残高 (千円) |
|--------------------------------------|--------|-----|------------------|-------------------|-------------------|-----------|------------|-------|------------------|----|------------------|
| | | | | | | 役員 兼任等 | 事業上 の関係 | | | | |
| 当事業年度 自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日 | | | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | |
|-------------|--------------------------------------|--------------------|--------------|-----------------------------|----|-------------------------|---|---|--|-------------|------------------|
| 同一の親会社を持つ会社 | ステート・ストリート・バンク・アンド・トラスト・カンパニー | 米国マサチューセッツ州ボストン市 | 29百万米ドル | 銀行、投資顧問、投資信託委託業務、及びそれらの関連業務 | なし | なし | 助言などの投資顧問サービスの提供並びに受入れ ソフトウェアの使用契約 人件費等及び事務手数料の支払 | 投資顧問料の受取 ソフトウェア使用料の支払 投資顧問料の支払 人件費等の支払 事務手数料の受取 | 51,600 190,649 113,920 268,072 557,461 | 未収入金 未払金 | 271,658 7,643 |
| | ステート・ストリート信託銀行株式会社 | 東京都港区 | 25億円 | 銀行業 | なし | なし | 投資信託計理の事務サービスの受入れ 兼職社員の人件費支払等 | 投資信託計理業務委託 事務所賃借料の支払 人件費等の支払 | 35,955 4,173 134,269 | 前払金 | 16,211 |
| | ステート・ストリート・グローバル・アドバイザーズ・リミテッド・キングダム | 英国ロンドン | 62百万ポンド | 投資顧問、投資信託委託業務 | なし | なし | 投資顧問サービスの提供並びに受入れ | 投資顧問料の受取 | 825 | - | - |
| | ステート・ストリート・マネジメント・S.A | ルクセンブルグ大公国ルクセンブルグ市 | 12.5万ユーロ | サービス業 | なし | あり 当社代表取締役が非常勤取締役に就任 | 投資顧問サービスの提供 | 投資顧問料の受取 | 56,645 | - | - |
| | ステート・ストリート・グローバル・アドバイザーズ・シンガポール | シンガポールシンガポール市 | 136万シンガポールドル | 投資顧問業 | なし | なし | 投資顧問サービスの提供及びETF商品の紹介 | 紹介料の受取 | 232 | - | - |

(注) 上記の金額のうち、ステート・ストリート信託銀行株式会社に関しましては、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には、消費税等が含まれております。

取引条件及び取引条件の決定方針等

- ソフトウェア使用料及び事務手数料については、グループ全体の費用を一定の基準で配分した金額に基づき決定しております。
- 人件費及び事務所賃借料については、実際支払額を基として支払いを行っております。
- 役員料については、当社との間で締結された役員提供契約に基づいて支払われております。
- 投資顧問料については、当社との間で締結された投資顧問契約に記載された料率に基づいて計算されております。
- ETF商品の紹介料については、当社との間で締結された役員提供契約に基づいて計算されております。

親会社又は重要な関連会社に関する注記

(1) 親会社情報

ステート・ストリート・コーポレーション（ニューヨーク証券取引所に上場）

ステート・ストリート・グローバル・アドバイザーズ・インク（非上場）

ステート・ストリート・グローバル・アドバイザーズ・インターナショナル・ホールディングス（非上場）

(2) 重要な関連会社の要約財務情報

該当事項はありません。

（1株当たり情報）

| 前事業年度 自 平成24年4月 1日 至 平成25年3月31日 | 当事業年度 自 平成25年4月 1日 至 平成26年3月31日 |
|---|--|
| 1株当たり純資産 1,271,158円07銭 1株当たり当期純利益 70,138円45銭 なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため、記載していません。 | 1株当たり純資産 1,387,638円26銭 1株当たり当期純利益 116,480円19銭 なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため、記載していません。 |

注) 1株当たり当期純利益の算定基礎は、以下のとおりであります。

| | 前事業年度 自 平成24年4月 1日 至 平成25年3月31日 | 当事業年度 自 平成25年4月 1日 至 平成26年3月31日 |
|-------------------|---------------------------------------|---------------------------------------|
| 当期純利益（千円） | 434,858 | 722,177 |
| 普通株主に帰属しない金額 | - | - |
| 普通株式にかかる当期純利益（千円） | 434,858 | 722,177 |
| 期中平均株式数（株） | 6,200 | 6,200 |

（重要な後発事象）

| 当事業年度 自 平成25年4月 1日 至 平成26年3月31日 |
|---|
| <p>本社移転について</p> <p>平成26年5月、グループの方針として、本社移転が決定いたしました。この移転により、移転費用の発生が見込まれますが、現時点ではその影響を合理的に見積もることができません。</p> |

4【利害関係人との取引制限】

委託会社は、「金融商品取引法」の定めるところにより、利害関係人との取引について、次に掲げる行為が禁止されています。

自己又はその取締役若しくは執行役との間における取引を行うことを内容とした運用を行うこと(投資者の保護に欠け、若しくは取引の公正を害し、又は金融商品取引業の信用を失墜させるおそれがないものとして内閣府令で定めるものを除きます。)

運用財産相互間において取引を行うことを内容とした運用を行うこと(投資者の保護に欠け、若しくは取引の公正を害し、又は金融商品取引業の信用を失墜させるおそれがないものとして内閣府令で定めるものを除きます。)

通常取引の条件と異なる条件であって取引の公正を害するおそれのある条件で、委託会社の親法人等(委託会社の総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する者をいいます。以下において同じ。)又は子法人等(委託会社が総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する者をいいます。以下同じ。)と有価証券の売買その他の取引又は金融デリバティブ取引を行うこと。

委託会社の親法人等又は子法人等の利益を図るため、その行う投資運用業に関して運用の方針、運用財産の額若しくは市場の状況に照らして不必要な取引を行うことを内容とした運用を行うこと。

上記に掲げるもののほか、委託会社の親法人等又は子法人等が関与する行為であって、投資者の保護に欠け、若しくは取引の公正を害し、又は金融商品取引業の信用を失墜させるおそれのあるものとして内閣府令で定める行為

5【その他】

(1) 定款の変更

委託会社の定款変更に関しては、株主総会の決議が必要です。

その他、営業譲渡および営業譲受、出資の状況その他の重要な事項は予定されておりません。

(2) 訴訟事件その他の重要事項

訴訟事件その他会社に重要な影響を与えることが予想される事実は存在しておりません。

第2【その他の関係法人の概況】

1【名称、資本金の額及び事業の内容】

(1) 受託会社

名称

三井住友信託銀行株式会社

資本金の額

342,037百万円（平成26年3月末現在）

事業の内容

銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律(兼営法)に基づき信託業務を営んでいます。

(参考)再信託受託会社

名称：日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社

資本金の額：51,000百万円（平成26年3月末現在）

事業の内容：銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律(兼営法)に基づき信託業務を営んでいます。

(2) 販売会社

| 名 称 | 資本金の額 | 事業の内容 |
|---------------|---------------------------|-------------------------------|
| 株式会社SBI証券 | 47,937百万円 (平成26年3月末現在) | 金融商品取引法に定める第一種金融商品取引業を営んでいます。 |
| 楽天証券株式会社 | 7,495百万円 (平成26年3月末現在) | 金融商品取引法に定める第一種金融商品取引業を営んでいます。 |
| カブドットコム証券株式会社 | 7,196百万円 (平成26年3月末現在) | 金融商品取引法に定める第一種金融商品取引業を営んでいます。 |
| マネックス証券株式会社 | 12,200百万円 (平成26年3月末現在) | 金融商品取引法に定める第一種金融商品取引業を営んでいます。 |

2【関係業務の概要】

(1) 受託会社

当ファンドの受託会社として、信託財産の保管・管理・計算、受益権の設定に係る振替機関への通知、外国証券を保管・管理する外国の保管銀行への指図・連絡等を行います。

(2) 販売会社

当ファンドの販売会社として受益権の募集・売出しの取扱い等を行います。

3【資本関係】

(1) 受託会社

該当事項はありません。

(2) 販売会社

該当事項はありません。

第3【その他】

- (1) 目論見書は電子媒体等として使用される他、インターネット等に掲載されることがあります。
- (2) 目論見書の表紙および裏表紙に、委託会社の名称および本店の所在地、販売会社等の名称、当ファンドの基本的形態等を記載すること、委託会社および当ファンドのロゴマークを表示し、図案を採用することがあります。
- (3) 交付目論見書と請求目論見書を一体として作成する場合があります。また、目論見書の表紙等に、以下のような別称を使用することがあります。
 - 目論見書 「投資信託説明書（目論見書）」
 - 交付目論見書 「投資信託説明書（交付目論見書）」
 - 請求目論見書 「投資信託説明書（請求目論見書）」
- (4) 目論見書の表紙裏に、以下の事項を記載することがあります。
 - 「当ファンドは、有価証券などの値動きのある証券に投資します（また、外国証券にはこの他に為替変動もあります。）ので、基準価額は変動します。従って、元本が保証されているものではありません。」
- (5) 有価証券届出書本文の主要内容を要約し、「目論見書の概要」として、目論見書の冒頭に記載することがあります。
- (6) 目論見書の表紙裏などに「契約締結前のご留意事項」として、ファンドに係るリスク、手数料等について記載することがあります。

独立監査人の監査報告書

平成26年6月20日

ステート・ストリート・グローバル・アドバイザーズ株式会社
取締役会御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 丘本 正彦 印
業務執行社員
指定有限責任社員 公認会計士 櫻井 雄一郎 印
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられているステート・ストリート・グローバル・アドバイザーズ株式会社の平成25年4月1日から平成26年3月31日までの第17期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、ステート・ストリート・グローバル・アドバイザーズ株式会社の平成26年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

() 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。

独立監査人の監査報告書

平成26年10月1日

ステート・ストリート・グローバル・アドバイザーズ株式会社
取締役会 御中

あらた監査法人

指 定 社 員 公認会計士 和田 渉
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられているステート・ストリートUSハイ・イールド債券オープンの平成26年2月21日から平成26年8月20日までの特定期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、ステート・ストリートUSハイ・イールド債券オープンの平成26年8月20日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する特定期間の損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

ステート・ストリート・グローバル・アドバイザーズ株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

() 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。